

---

第4回 大山町議会定例会会議録（第4日）

令和6年6月14日（金曜日）

---

議事日程

令和6年6月14日 午前9時30分開議

1. 開議宣告

日程第1 一般質問

通告 順	議席 番号	氏名	質問事項
8	8	大原 広巳	1. イネカメムシ防除対策について
9	4	島田 一恵	1. 道の駅大山恵みの里について
10	1	小谷 英介	1. 副町長の役割は 2. 地方創生監の役割は
11	14	岡田 聡	1. 防災・減災対策を一層高めて安全なまちに 2. 消滅自治体からの脱却施策は
12	15	野口 俊明	1. 町の広報はどう考える
13	12	近藤 大介	1. 人手不足、人材不足の対策は 2. 第三次総合計画の策定について

---

本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

---

出席議員（14名）

1番 小谷 英介	2番 西本 憲人
3番 豊 哲也	4番 島田 一恵
6番 池田 幸恵	8番 大原 広巳
9番 大杖 正彦	10番 大森 正治
11番 杉谷 洋一	12番 近藤 大介
13番 吉原 美智恵	14番 岡田 聡
15番 野口 俊明	16番 米本 隆記

---

欠席議員（1名）

7番 門 脇 輝 明

---

欠 員（1名）

---

事務局出席職員職氏名

局長 ..... 野 間 光 書記 ..... 林 原 彰 吾

---

説明のため出席した者の職氏名

町長 .....	竹 口 大 紀	教育長 .....	鷺 見 寛 幸
副町長 .....	吉 尾 啓 介	教育次長 .....	赤 路 卓 也
総務課長 .....	金 田 茂 之	地方創生監 .....	山 根 篤 大
財務課長 .....	池 山 大 司	総合戦略課長 .....	山 崎 栄 一
社会教育課長 .....	西 尾 秀 道	商工観光課長 .....	源 光 靖
まちづくり課長 .....	深 田 智 子	農林水産課長 .....	桑 本 英 治
水道課長 .....	大 前 満		

---

午前9時30分開議

○議長（米本 隆記君） 皆さん、おはようございます。

ただいまの出席議員は14人です。定足数に達しておりますので、これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

なお、本日の会議には、7番、門脇輝明議員から欠席の届けが出ておりますので、御報告いたします。

---

日程第1 一般質問

○議長（米本 隆記君） 日程第1、昨日に引き続き一般質問を行います。

通告順に発言を許します。

8番、大原広巳議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） それでは、皆さん、おはようございます。2日目のトップバッターで、本日は1問用意しています。

質問に入るまでに、ちょっと前説を少し話したいと思います。3月の定例会のときに大型水稻農家の皆さんから陳情がありまして、草刈りのラジコンの草刈り機のことですとか、カメムシ対策もということで陳情を議会としても通しました。その流れで、県の

ほうもカメムシ対策の補助金をつける結果になりました。

それを町長が上乘せするというような形で追随して、町単独でもやるということで、今回議案が出ています。町長は、他町に先駆けて、結果はどうあれ早くやることが、それが大山町が農業を重視しとるという姿勢を内外に出すいいきっかけになるということを出されたというふうに思います。この待つんじゃなくて前に出る挑戦的な姿勢は、農業関係者の一人として今回町長の決断にはすごく前向きで、よかったなというふうに感じました。

それで本論に入りますけども、カメムシが去年の夏の猛暑、続けて暖冬が続いたということで越冬をかなりしてるということが春先から話題になってきました。今日、カメムシの支援事業の新しい事業について中心で聞くわけですけども、やはり前もイネミズゾウムシあるいはウンカが台風じゃなくて、国内で越冬して西のほうからだんだん東のほうに来てるといふ、害虫対策全般にも後半はちょっと聞きたいなというふうには思っております。

まだまだこの今回のカメムシの関係の事業の周知がこれからだというふうに思いますので、ちょっと質疑でも何人か聞かれましたけども、より今日は掘り下げて、細かいところも聞きたいなというふうには思っております。

そうしますと、通告しました、この補助事業についての小問も用意しとりますし、ちょっと読み上げます。

イネカメムシ防除対策についてということで、昨年酷暑や暖冬により、越冬したイネカメムシが、県西部を中心に大量発生をし、甚大な被害が予想されています。

本町も、稲作地帯を中心に対策が急がれます。今回の緊急防除支援について問います。

1つ目、昨年本町や西伯郡などの被害の状況は。

2つ目、6割の農家の手挙げとあるが、根拠は。全域の6割で被害は出ないか。

3つ目、近年は、防除されない農家も多い。農協や民間業者のヘリ防除が増加すると思われるが、対応は可能か。またドローンによる防除を所有する農業法人などに依頼できないか。

4番、稲以外の果樹や野菜にも、今後影響が出ないか。何か対策は考えていますか。

5つ目、大規模農家と中小規模の農家との作付バランスが、今後崩れないよう、防除対策に万全を期すよう、さらなる啓蒙や広報するべきだが対応は。

以上5点、よろしく願います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 皆さん、おはようございます。一般質問2日目、よろしくお願いいたします。

大原議員の一般質問にお答えをしたいと思います。まず前段のところたくさん褒めていただきましたので、今日の一般質問もいいスタートが切れそうだなというふう

思っております。

このイネカメムシの防除については議案の質疑あるいは他の一般質問等でもありましたので、何か細かいところ聞いていきたいというお話がございました。細かい話になりますとほとんど担当課長の答弁みたいなことになりますので、できれば広い話も入れていただければなというふうに思っております。

それでは、まず、1点目の昨年度の被害状況についてのお尋ねですけれども、大山町におきましては大山地区、名和地区におきまして斑点米のイネカメムシ被害が見られたところですので。西伯郡内では南部町を中心に大きな被害がありまして、収量が3割に満たない圃場もあったというふうに聞いております。

2点目の6割の根拠についてのお尋ねですけれども、大山町単独事業として、全圃場の過半での取組を目指しておりまして、6割を設定したところでございます。防除されない圃場では被害発生が想定される場所ですので、なるべく多くの圃場で取り組んでいただきたいというふうに考えております。

3点目のお尋ねですけれども、県による事前調査におきまして、J A鳥取西部では慣行防除で手いっぱい状態でありまして、出穂期に合わせた追加防除は対応困難との結果でありました。結果、ドローンを利用する個人農家や農業法人に依頼される方も増えると考えられます。

続いて、4点目の稲以外の果樹や野菜に影響はないかというお尋ねですが、普及所に確認しましたところ、イネカメムシによる果樹や野菜への影響はないとのことでした。まずは水田での防除に力を入れていただきたいというふうに考えております。

最後、5点目のお尋ねですけれども、既にJ A鳥取西部におきましては生産者にチラシ配布で啓発をしているところでございます。今後、地域防除計画の検討を行う中で、大山町としてイネカメムシに対する出穂期の一斉防除が行えるよう広報もしていきたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、追加質問をさせていただきたいと思えます。

まず最初に、被害の状況を聞いたわけですが、大山町は一部しか被害が出ていない。しかも、なかて以降のきぬむすめ、あるいは飼料米で作とられます日本晴の2品種が被害が多かったということです。後半になるほど夏場に発生したカメムシの密度が高くなって被害が出たんじゃないかというふうに推測されます。

県の事業は、そのなかて以降の品種に被害が出たということで、西部中心にこのきぬむすめや日本晴の防除を強化しようということで、個人でされる方もあるとは思いますが、委託の防除に出せない方の補助を県のほうはするという形です。

それで町のほうは、町長が最初、上乘せという言い方をちょっとされたので、ひょっとしたら県のほうの事業と町の事業のほうと両方参加できるのかなというふうに勘違いした人も多数おられたみたいですので、基本、県の事業にのられる方は、品種によっても早い遅いがありますから、全てじゃないかもしれませんが、1圃場ですよ、1圃場としては県の事業と町の事業は両方はできないという認識でよろしいですよ。ちょっとこれ確認を先にしたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 制度の詳細も含めまして担当からお答えをさせていただきます。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

先ほど御質問のごさいました圃場について、県の事業、町の事業の使い分けになりますけども、先般質疑でもお答えしましたとおり、圃場ごとに、この圃場は県の事業を使う、この圃場は町の事業を使うということで使い分けしていただくと、県の事業、町の事業の重複は認めないということでごさいます。よろしくお願ひします。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） このテレビを見とられる方も最初、ちょっと混乱されたかなというふうに思いますので、今言われたように一つの圃場で一つの事業ということが大原則でこの事業を進めるということです。

それで県の事業は、自ら防除できない方の委託経費の2分の1を補助する事業です。

それで町の事業は、結局それにのれないといひますか、対象にならないところは町の事業で全て一応参加はできるという考えでよろしいでしょうね。これもちょっと確認ですけど。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細、担当からお答えさせていただきます。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

町の事業は、県の事業を補完するということもごさいますけども、基本的に県は、なかて品種の防除委託の経費の支援ということになりますけども、町におきましては対象品種を全品種、食用米、飼料用米全ての品種ということにしとりますし、ただ、町の事業におきましては2回防除をした方において1回分、その半分について支援するというところが大きな違いでござひます。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、面積的には兼業農家の皆さんが1戸当たりの面積としては少ないですけども、農家数としては圧倒的に兼業農家の方が多くいわけで、兼業農家の皆さんが使いやすい事業になれば参加者が当然増えるかなというふうに思います。

僕の見てる範囲では、兼業農家で1町歩内外作っておられる方で定期的に防除されている方、あるいはましてや2回防除されている方はすごく少ないと思います。防除していない人が2回の防除をしないと1回分の水稲、農薬の補助がもらえないというのはちょっとハードルが高いような気がするんですけども、今農薬も殺菌剤と殺虫剤と混合の液剤を振るように近年なって、出穂期1回で殺虫も殺菌も一気にやるという1回防除の方が増えていると思います。兼業農家の皆さんに2回防除してくれというのはちょっとハードルが高いと思いますけども、どうでしょうか、その条件は外せないのでしょうか。1回防除の人は農薬の支援はしないのでしょうか。これも確認です。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細を担当からお答えさせていただきます。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

まず2回はハードルが高いじゃないかという御指摘でございますが、地域の慣行防除、基本的には基本にしましたのはJAが出しとります防除・栽培暦になりますけども、こちらのほうで出穂期、もしくは穂ぞろいのとくと2回の防除というのが慣行防除ということで示されとるものがあつた。基本的に南部町におきましても防除されない方が大型農家があるという状況の中で被害が拡大したという状況を踏まえますと、やはりこの通常防除がいかに重要かということが分かるかと思うんですけども、このJAの示しとります慣行防除、防除の計画、2回の防除というの、これを基本にしとるところでございますので、何とか今回は地域に、大山、名和、中山、各地区によってやはり防除の方法というのは違ってるところがあるかと思ひます。特に大規模農家の方は防除をされない方も多いと聞きますので、何とか今回の町の支援を受けまして2回防除を定着させたいというのが町の思ひでございますので、今年度こういった取組があるということをもまずは周知させていただく。今回の西伯郡内もしくは大山町内での被害状況を見た中で、また県も町も今後の対策を考えていくことになろうかと思うんですけども、何とか来年度、もしこの被害が収まらないということになれば来年度も見据えて何とか2回防除を定着させたいという思ひで進めとるところでございますので、何とか御理解をいただきたいというふうに思ひます。

○議員（８番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（８番 大原 広巳君） しつこいようですけども、作っとられる人の立場になって考えると、今まで防除していなかった方にこういう状況だから２回してくれという前提はあくまで目標であって、１回の防除でも農薬の補助を出して、２回することが定着する前段としては１回の防除でも支援したらどうでしょうか。意図としては、本来は２回するというのが前提であっても、どの程度抑えられるかは１年たってみんと分かんないので、そこら辺もうちょっと検討の余地があるんじゃないかなというふうに思いますが、どうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

基本的には先ほど農林水産課長が答えたとおりであります。今後、今年度の取組を見ながら、例えば取組が際立って少ないとか、そういう改善の余地があればまた検討していきたいというふうに考えとります。

○議員（８番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（８番 大原 広巳君） 分かりました。

それから早生のひとめぼれあるいはコシヒカリの関係で、近年、夏が猛暑が続いて、コシヒカリからきぬむすめはかなり品種転換された方もおられます。おられますが、やはりまだまだ早生の品種を作る方も相当数おられます。出穂期が土用の一番暑い時期と重なりますんで、夏の暑い時期に動噴背負って消毒するのはなかなか大変かなというふうに思います。

かなりこの事業を受けて委託に出される方が増えると思います。委託に出すということは消毒をするということなので、防除の一環として誠にいいことだというふうには思います。と思いますが、さっきの答弁の中でもありました。私も農協の担当者と何人か話しした中で、ヘリを使って農協があっせんしてやる防除はもう限界点に近いと。もう朝から晩まで飛ばんとかなせんかもしれんというような声も聞きました。ということは防除の輪を広げようということであれば、やはりドローンなどの、最近増えてきました。農業法人の方で入れられる方が増えてきました。もう既に農薬散布も作業委託で買った当初からやっとられます。その人にも何人か聞きましたけども、何ぼでも受けるけども、農薬が最後まであるかいななんてやな話もちらっと聞きました。

この委託が増えるということですが、実際委託は農薬の補助にしか補助金が出ないので、変な意味、このなかで以降の品種と早生とは同じ委託に出しても待遇がちょっと違うのかなというふうに思います。どうでしょうか、町のほうでドローンをはじめ大規模でやっとられる方の作業委託で依頼が増えるというふうに思いますが、そこら辺は何か

今後、時期が重なりますので、防除の時期が、どの程度やれるか農業法人などと話し合いはされてますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えさせていただきます。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

農業法人等の打合せということがございますけども、今後被害防止の計画を関係者、町が中心となりまして、JA、普及所等と話し合いをすることになりますけども、その中で担い手と言われるところ、担い手も参集ということがございますので、大規模農家に声をして、状況についてはその場で確認もしくは依頼ということになるかと思っております、今後予定しとりますその検討会の中で一応調整するというところでございます。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） いろいろ今年度やってみて、来年度に改良する点が多々出てくるとはもちろん思います。JAや普及所などの関係機関と密に、この夏の間は農林課のほう先頭に立って情報を共有して、できるだけ防除の輪を広げるようお願いしたいというふうに思います。

ここまでイネカメムシを中心に話ししてきました。

小問で上げておりましたが、果樹の関係あるいは野菜の関係もカメムシの、カメムシいろんな種類があって、稲につくカメムシばかりじゃなくて、果樹とか野菜にも、カメムシ類ですよ、違う種類かもしれませんが、被害があちこちで出ているようです。1週間前の農業新聞に果樹の関係でカメムシが大量発生している。果樹、特にミカンなどは周年栽培されてるところも多いので、もう既にかんりのカメムシが出ているようです。

本町も梨やリンゴなど、もちろん専門農家の皆さんがしっかり経営されてますので、抜かりはないとはもちろん思いますけども、やはりこれだけ作物、農作物全般にカメムシが出てくる状況を見ますと、いつも以上に対策なり気をつけにゃいけないというふうに思いますが、農林課のほうで生産者の会などから何か要望なり状況なりを把握されてますでしょうか。もしあったら教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当課へのお尋ねですので、担当課からお答えをいたします。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

御質問の件につきましては、現時点ではまだ果樹農家、野菜農家からの具体的な相談等はありません。以上です。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） 今のところ目立った相談はないということですが、今年も夏は暑いという長期予報も出ておりますので、情報は密に取っていただきたいというふうに思います。

それから小問の中でドローンを使ってスマート農業を推進しているという、ちょっと今回の防除の関係で関わりを持つんだらうなというふうに思って、実は総務経済の委員会でも宮内の馬田君ところが稲の直播栽培と、種を直接ドローンでまいて栽培することに今年から本格的に参入をしたということで、ちょっと見てきました。前は20キロぐらいしか重量的には背負えなかったのが今の、今回、馬田君が更新したのは50キロまで積める大きなドローンでした。50キロということは、水和剤は容量が何百倍、何千倍とかにはいけませんので、水和剤の散布するときはたくさん積めるということはずごく有利だし、長時間大きな、広い範囲の散布ができるな。こげなこと言っちゃなんですけども、ヘリ防除ももちろんええんですけども、ヘリ防除以上に時間的にはたくさんこなせるのかなというふうに思います。農協のヘリ防除もひょっとしたらドローンを使う形に今後は変わっていく可能性もあるのかなというふうには思いますが、現在のところはヘリが中心で防除をしております。今回宮内の馬田君ところが10町歩近く直播をしているということで、かなり高い機械ですので、作業委託でしっかり費用の一部を補填するべく頑張ってもらいたいなというふうには思っております。

ドローン持ってる方、ほかにも何人かおられます。町のほうとして農協のあっせんのようにドローンを持ってる大規模農家の方とちょっとグループみたいな格好で注文を取りまとめるようなことはできないものでしょうか。何か全く個人対ドローンを持つとられる方とのことに、個人個人のことで終わりでしょうかね。何か間を取ってこういうふうにしませんかのことは農林としては何か予定はありませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 細かいやり方の部分は担当からお答えをさせていただきます。

○農林水産課長（桑本 英治君） 議長、農林水産課長。

○議長（米本 隆記君） 桑本農林水産課長。

○農林水産課長（桑本 英治君） お答えいたします。

ドローン所有されとります大規模農家もしくは農業法人さんとの話というのは、先ほどお答えいたしました検討会の中で恐らくそういった話も出るだろうというふうに思っ

とります。やはり依頼をする側とすれば、誰がそういったものを所有していて、どういった条件でやってくれるかという情報はやっぱり分からないところがあると思いますので、その検討会の中で意見交換をする中で、どういった周知方法もしくは注文にどれほどうち、町が関われるのかというところちょっと検討していきたいとは思っています。町内で大規模と言われる方、特に10ヘク以上水稲生産をされてる方につきましては、おおむねドローンを所有してるという情報はいただいとりますので、その方とちょっと意見交換をしていく中でなど検討していきたいなというふうには思っています。以上です。

○議員（8番 大原 広巳君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 大原議員。

○議員（8番 大原 広巳君） そうしますと、大体今回の事業の概要と細かいところも分からないところがあったところもちょっと確認できましたので、あと、そうですね、もう1か月半ぐらいで出穂期に、8月の声が、土用の頃から、早い人はもう7月の終わりぐらいには出穂が始まりますんで、7月の後半からはぼちぼち始まるのかというふうに思います。もう1か月ちょっとです。もう6月半ばですんで、ぜひともこの事業は一軒でも多くの方に防除も必要だなという認識と啓蒙のことに寄与することを願っています。

今回新しい事業を町長が思いつかれて、これから結果はもちろん出るとは思いますが、今後の集落戦略も来年度にはまたつくらなくちゃいけない。また夏の頃から各地区で研修会があるみたいですが、件数でいえば稲作農家が一番、兼業農家の皆さんが一番多いですんで、このカメムシのことでやる気をなくして集落のメンバーから外れるようなことがあっては、また集落戦略の計画を練るのに支障が出るというふうに思います。ぜひとも明るい情報を出したいなというふうに思います。

最後に、町長にこの事業の取り組む意欲と、この場で言うことではないかもしれませんが、もうあと1年を切ってしまいました。僕たちもそうですけども、町長は選挙を前にばらまきするだかやみたいなの、ひねくれたようなことを言われる方も中にはおられます。そうじゃなくて、これは大山町の農業の前途を明るくするための事業なので、皆さん取り組んでくださいというふうに、僕は町長の意欲をすごく買っていますので、最後に、町長にこの事業にかける意気込みを聞いて終わりにしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

このイネカメムシの防除事業につきましては、昨年度近隣の自治体でそういった被害が発生をして、すぐに動かれて、それによって県も動いて、今、今年度こういった事業が県のほうでもされていると。そこでは手の届かない部分は、やはり大山町として、基礎自治体としてやっていく必要があるということで、農業生産者の声を基にしながらこういった制度、政策を考えてきたところであります。

このイネカメムシの防除事業の目的としましては、1つの圃場や一部の圃場でイネカメムシの被害を抑えていくということではなくて、やはりイネカメムシの特性上、周りにどんどん広がっていくというようなことが考えられますので、近隣の自治体からどんどん広がってきている状況においては早い段階で大山町のエリアにおいても面的にイネカメムシを防除していくということで水田を守っていく、水稻農家の生産を支えていく、そういうようなことを目指しております。

さらには、今の大原議員のやり取りの中で、近年では防除の仕方も変わってきて、ヘリ防除だったのがドローンも最近では活用したり、さらにそのドローンの機能もどんどん高まってきているという話がありました。私も子供の頃の記憶で、防除と聞くと何かナイアガラとか、ああいう形でイメージするんですけども、やっぱり農家の中にも、スマート農業とかと簡単に言いますが、我々農業政策やっている側はスマート農業でこういう最先端の機械がとかということを使うんですが、やっぱり農家の皆さんの中にはどこまでその技術が発達していて、どう活用できるのかということが実感として分かれていない方というのがたくさんいらっしゃると思います。この防除の事業を通じてまた例えばドローンの防除のすばらしさに気づいていただけるだとか、そういうような副次的な効果にも期待をしながら大山町の農業がますます発展するように、このイネカメムシ防除事業に取り組んでいきたいというふうに考えとります。

○議員（8番 大原 広巳君） 終わります。

○議長（米本 隆記君） これで大原広巳議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） 次、4番、島田一恵議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 4番、島田一恵です。2番目となりますが、皆さん、おはようございます。本日もよろしく申し上げます。

私の質問なんですが、通告に従いまして1問だけ質問させていただきます。道の駅大山恵みの里についてです。

今や新幹線と並ぶ日本経済の大動脈が高速道路です。旅の通過点としてつかの間の休憩の場だったサービスエリアが進化を遂げいつしか旅の目的地としても人気を集める存在になっています。山陰道も少しずつ変化し、道の駅も旅の目的地になればいいなと思います。

大山恵みの里は、大山の山の幸、里の幸、海の幸が集結した道の駅です。直売所の新鮮な野菜とレストランで頂くおいしい食事が楽しめます。拠点を生かして地域を活性化する道の駅についてお伺いします。

1番、令和3年事務事業評価からの政策提言において、公益・収益事業のすみ分けを見直し合理的に必要な予算を積算すべきと提案し、課題はあるものと認識しており具体

的に検討を行っていく考えと回答がありました。その後の状況を教えてください。

2番、令和4年6月に店舗が拡大されゆで麺機も導入されましたが、その後の成果を教えてください。

3番、インフォメーションで、案内するスタッフは常駐し、近隣エリアの観光情報だけでなく町内の案内は対応していますでしょうか。

4番、令和4年6月に店舗が拡大されゆで麺機も導入されましたが、その後の成果をお願いします。

5番、情報提供棟の用途、ここの利用者の状況を教えてください。

6番、国交省のことなのですが、一応、車中泊は増加傾向にありますが、恵みの里では可能でしょうか。

7番、今後の道の駅の展開、取組について。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（米本 隆記君） 島田議員、通告は6までで、ちょっと順番もずれてるようでしたけども。

○議員（4番 島田 一恵君） 6番までになっていますか。

○議長（米本 隆記君） はい。

○議員（4番 島田 一恵君） あれ。7番の今後の道の駅というのに入ってないですか。

○議長（米本 隆記君） はい。（発言する者あり）

○議員（4番 島田 一恵君） じゃあ、これは……。

○議長（米本 隆記君） 入ってますけど、項目的にこちらに通告されてるのは6までなんですけど。

○議員（4番 島田 一恵君） 6まで。

○議長（米本 隆記君） はい。（発言する者あり）

○議員（4番 島田 一恵君） 一番最後の項目は。

○議長（米本 隆記君） 一応こちらのほうでもらってる回答で報告させてもらいますんで、お願いします。

○議員（4番 島田 一恵君） 分かりました。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 島田議員の一般質問にお答えをいたします。

道の駅大山恵みの里についてということでお尋ねをいただいておりますが、まず、1点目のお尋ねに関しましては、公益事業としましては町内生産者・事業者の所得向上、大山ブランドのPR・販路拡大を図る事業等に対して継続して助成を実施しているところでございます。公益・収益事業の区分けは、従前からの整理方法を継続している状況でありまして、他の自治体の状況や県関係団体の整理方法を参考に公社と協議を行っていきたいと考えております。

2点目のお尋ねに関しましては、スタッフが常駐をして、町作成の地図等を使用して町内案内に対応しているところがございます。

3点目のお尋ねの店舗拡大や、あるいはゆで麵機の導入の成果のお尋ねですが、ゆで麵機導入後、食堂の売上げは伸びている状況でございます。昨年そばを提供して以来麵類全体の売上げの増加につながっている状況でございます。

4点目の情報提供棟のお尋ねですが、国土交通省との道の駅維持管理に関する協議に基づきまして、情報提供棟には県内の道路情報を中心に、県内外の観光チラシを分かりやすく置いている状況です。利用者数の状況は確認ができておりません。

5点目の車中泊に関するお尋ねですが、道の駅の役割は、仮眠を含む休憩場所としての利用でありまして、宿泊目的としては御遠慮いただくようお願いをしているところがございます。

6点目の今後の展開、取組についてのお尋ねですが、道の駅の意義であります道路利用者への良好な休憩場所の提供や地域や道等の情報提供をしっかりと行いまして、道路利用者の利便性、快適性の向上を図るとともに、来場者への地域産品等の周知・販売によりまして、地域の振興を図っていく考えであります。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） すみません。ちょっと順番が違ってきたので戸惑いました。分かりました。

1番目の答弁なんですけども、ちょっとこのところは令和3年度に私たち総務のほうで行った事務事業評価のことでしたので、ここはこの回答で納得しました。

あと2番目です。スタッフが常駐して、町作成の地図を使用して町内案内に対応しているということなんですけど、このインフォメーションというところは本当に大事なところでして、スタッフが常駐して、近隣エリアの観光だけでなく、町内の案内をしていただきたいんですが、町内の案内に対応しているというふうに書いてあるんですが、どのような対応かと思いますが、できましたら町内で今いろいろな、様々なイベントもあったり、本当に普通のネットで見るとような情報だけではなくて、ここに来ないと分からないような地元の情報ですね、そういったものは言ってみたら珍しい場所の案内とか、今だったら堂の名所とか、今話題で大山にハートマークができてるんですけど、こういったようなことの案内とか、あとは大山は水が何でおいしいのかとか、何かそういったちょっとサービスを兼ねたような案内みたいなものをされてるのかなというふうに思いました。

あとは声かけの一言として、どっかにあると思うんですが、J A Fの会員さんとかモンベル会員には優待特典があたりするんですけど、こういった案内とか、ポケモンのマンホールなどの施設がどっかにありますので探してみてくださいとか、何かそういう

声かけの一つとか、そういうことなんかもスタッフの人はされてるのかなというふうに思います。

大山ブランドのPRも目的の一つとして補助事業であるので、その重要な担い手である従業員の人たちに対する接客や情報発信に関する教育とかはできていますでしょうか。これは町のほうが指導されてるのか、公社のほうが指導されてるのか、そこも含めて答えをお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

基本的には恵みの里公社の事業であれば恵みの里公社がしっかり指導、研修等をしているというところでありまして、先ほどのお尋ねのあった案内業務等に関しましては求められている情報を的確に提供してもらっているというふうに認識をしております。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） これが公社ということなんですけども、実際に使われた方とかからの声なんですけど、とつてもばたばたして忙しくされてて、なかなかあそこのインフォメーションに座っておられない。あとはレジのところにいる人に声かけをして聞いてみたりとか、商品の入替えでばたばた動いとられるので、そういう人に声をかけて聞いたりするというふうな声がありました。

そもそもインフォメーションといいますか、こういう場所というのはちゃんとそれ用の窓口というのがないといけないところだと思うんですが、そういったところの指導とかも含めていかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えをさせていただきます。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（米本 隆記君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） 道の駅のインフォメーションについてでございますが、こちらにつきましては常駐でのお問合せがあったときに情報をお出しするということでの対応を指示しております。

ただし、常駐というのが席に常に座っているという状況ではなくて、例えばインフォメーションのカウンターに来られたときにすぐに対応ができるような状況で、ほかの情報収集作業とか情報提供関連作業とかをしている状況でございますので、常に座っているという状況ではない状況でございます。以上です。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（４番 島田 一恵君） 分かりました。

次の３番のゆで麵機の導入後のことは、何かすごいそばが全体の売上げの増加につながっているというふうに答弁がありました。

大山製品の拡大を目的とした補助金なんですけども、来客数とか売上高は伸びているというふうにあります。道の駅にちょっと行ったりすると、野菜とかそういうものが並べてありますが、生産者の名前とかは入ってます。やはりそれをもっと進化したようなところに行きますと、ああ、手がかかってるなとか、ああ、お客さんのためにこんなことされてるなというところを見ると、やはりPOPとかをつけたりとか、生産者の思いとかそういう、こういうところで作ってますとか、何かそういうふうなポイントみたいなものがPOPが一つあるだけで何となく商品が魅力がもっと増えていくと思います。買う予定だったけど、じゃあもう一つ買おうかなみたいな感じになっていたりもするんですが、そういったことなんかも、店舗が今までは狭かったんですけど、ちょっとしか増えてないんですが、そういうことによってこういうことにもちょっと使ったりとかできる場所とかも確保できて、そういうふうなPRもしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

商品の見せ方に対してPOPで表現をするだとか、様々なやり方あると思います。いただいた御意見も踏まえながら指定管理をしている恵みの里公社に対して提案等していきたいというふうに思っております。

○議員（４番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（４番 島田 一恵君） お願いします。

あと、最初からですけど、ここは店舗が狭くて、食堂とかで座れない人たちの対応とか、連休とかそういうときにはなると思うんですが、そういった対応とかはどのようにされてるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えさせていただきます。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（米本 隆記君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） 特に例えばゴールデンウィークの時期でございますとか、年末年始といったところでは道の駅の来場者が大変多くなる状況でございます。そういったときには、既に過去に食堂の席数については増加させた経過もございますが、それでも足りない状況が発生しています。そういった場合に、例えば外のほうでいわゆ

るテークアウト品の食べ物を提供するとかというようなことでありましたり、外のほうで食べていただけるような状況で誘導もしつつ運営をしていっているというような、全ての方にお座りいただくのが難しい状況は承知の上での対応をしているところでございます。以上です。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） それについてなんですけども、今の並べてある物品の量というのは適量と見とられますでしょうか。何か人が擦れ違ったりするのもすごく擦れ違いにくいような店内になってるんですが、その辺りの声とかは聞いとられないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（米本 隆記君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） 今の商品等のいわゆる陳列とか、それから量的なところについて、直接利用者の方等から、例えば町のほうに何かしら御意見いただいているような状況はないと認識しております。

ただ、例えば道の駅の内部で細かく聞き取りとかの記録を残しておられますので、そういった中でそういう声がかしたらあるのかもしれませんが、例えば理事会とか評議会などで公社の運営、それから道の駅のことについて様々年間を通じて協議をしておられます。その中でいろいろな協議を重ねた結果、整理結果が今の状況ということで認識しておりますので、適切な対応の結果が今であるという認識ではいるところです。以上です。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 4番の情報提供棟というんですかね、施設の用途と利用者の状況というのを聞きました。

その答弁書も今見ておりますが、この場所は町長、行かれたことありますか。中見られたことはありますか。一度行ってみてください。本当に中がとっても乱雑になってまして、もともと観光交流センターは売店とか食堂とか、あとレジを兼ねたインフォメーションカウンターみたいな感じに見えます。受け取ってます。売店は、多少の野菜もありますが、加工品とお土産物が中心です。

大山は「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」というテーマで日本遺産に認定されていまして、観光客の人には内容がいま一つ分かりにくく、さほど観光には寄与していません。これが今の情報提供棟の中にもあります。今、情報コーナーと情報提供施設

とも関係するんですが、道の駅として、店番とコンシェルジュ、案内人ですね、お一人で兼任するこの形が人員配置の上では理想かもしれませんが、利用者はここに観光案内を求めに来ると思います。そうなる情報提供施設はどうなるのかなというふうに思いますが、どんな使い方されるのかなと思います。

中には、今の状態はモニターが1台故障してまして、貼ってあるポスターはほとんど色が落ち、パンフレットも整理整頓とか全くされていません。実態は無料の休憩室のようになってまして、あそこの椅子でよく寝とられるみたいです。そういうものが多分最初できたときは、日本遺産をPRしていたのかもしれないんですが、全然目立っていないし、映像とパネル展示を駆使して日本遺産の紹介コーナーとか、あとは地元の人が撮った町の様子とか写真を展示するとか、そういう魅力ある場所として展開とかは考えておられないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず行ったことがあるのかというお尋ねですが、何度も行ったことがあります。

そのほかお尋ねの件に関しましては、国土交通省の考え方によるところだというふうに考えとります。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 国土交通省は分かってるんですが、中のそういうことで、パンフレット並べたりとか、そういった作業はどこがしてますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○商工観光課長（源光 靖君） 議長、商工観光課長。

○議長（米本 隆記君） 源光商工観光課長。

○商工観光課長（源光 靖君） パンフレットの整理等につきましては、過去のこの情報提供棟関係の維持管理に関する覚書等によりまして町のほうで整理、管理をするということになります。以上です。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 町のほうで維持管理をされてるというふうに今聞いたんですが、大体どのぐらいの程度で維持管理に、見に、チェックに行ったりされてますでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

先ほど担当課長、町のほうでと言いましたが、指定管理の恵みの里公社が管理をしているところでございます。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 分かりました。

公社のほうであれば、なおさら同じ敷地内で本当に目につくところにあります。だったら何であんなような中が乱雑であって、何にも本当に魅力のない場所にあれだけのいい建物があるのかなというふうに思ったりします。どうせそういう場所として国交省のほうで建ててもらってるんでしたら、もっと公社のほうでPRができる方法とか、お客さんがやっぱり使われたり、あと情報収集するのにすごく便利がよかったりとか、そういうふうなところをちょっともっと考えてほしいなというふうに思います。

ちなみに私、道の駅結構行ったりするんですが、とある道の駅に、その情報のところに棚にパンフレットがいっぱいありますが、どこも、その一つに妻木晩田さんのパンフレットがありました。妻木晩田さんのパンフレットがただ棚に置いてあるだけだったらそんなに驚きはしないんですが、この棚に置いて、その下にPOPで、ここからだったら55分で行けますとか、そういうメッセージがついてます。それは大山恵みの里公社にもこのパンフレットがあって、ここから何分というふうと同じように書いてあります。何かこういうのを見たりすると、ああ、すごい何か自分ところのPRを一生懸命されてるなというふうに感じました。なので、ただ単に置いてあればいいというもんじゃなくて、本当にちょっと手を加えたりするだけで観光客が見たときにでも全然違ってくると思います。

こういったような細かいところとか、公社のほうとしてはしたりはしないんでしょうか。その指導みたいなのはないんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

御意見として恵みの里公社に伝えておきたいと思います。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 5番目の車中泊についてということで、もちろん宿泊目的としてはできないということになってますが、恵みの里公社のほうにもパンフレットといいますか、ありまして、ちょっと見ましたら車中泊できる道の駅の御案内みたいなものが何か所か書いてありました。なので、ああ、ちゃんと車中泊できる道の駅もあるんだなというふうに思ったんですが、確かに車中泊というのはいいですよということは言えないんですが、中にはルールを守れば大丈夫ですよとか、許可はしていないけど、コ

コンビニを併設している道の駅では、それはもう、仕方ないではないですけど、ていでそういうことになりますみたいなことを言う人もありました。

今、車中泊というのは本当に多いです。ちなみに今、皆生のOUランドなどにそういう車中泊専門の駐車場があります。そういうものというのは本町は考えておられないでしょうか。場所は別に恵みの里じゃなくてもいいと思うんですけど、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

現在のところ検討はいたしておりません。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） 車中泊という形もいろいろありまして、例えば家族とか仲間と車旅を楽しみたいけど、車中泊がしづらい車、あとはバイク、自転車などの就寝スペースが足りない人たちが安心して利用できるテント一張り1,000円キャンプサイトのような設備もあったりするところがあります。こういったものに対してはどうなんでしょうか。全く考えとられないんでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

車中泊ということではなくて、オートキャンプを含めて島田議員言われるようなキャンプ場の整備等は、今後も大山町として取り組んでいきたいというふうに思っております。

○議員（4番 島田 一恵君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 島田議員。

○議員（4番 島田 一恵君） ありがとうございます。

あと6番と7番はないと言われたんですけど、私はよく西いなば気楽里とか、きなんせ岩美とかに行ったりします。そこは何がいいかといいますと、地元の魚屋さんが入ってまして、琴浦もそうだと思うんですけど、そうすると安くておいしく、特に気楽里はサバずしがおいしいですが、本町にも漁港もあり、魚も豊富なんですけども、道の駅に来られる観光客の方にも食べてほしいと思ったりもします。そもそも道の駅があんな広い道の駅じゃなくて、今の恵みの里公社があんな広さだったという経緯があると思うんですけど、その経緯も踏まえた上で、新しくできた道の駅は本当に広くて、様々な店舗もいっぱい入っています。

中には道の駅は本当に今いろいろと展開してまして、温泉だったり、子供の遊び場だったり、スポーツジムもあったりします。年齢も幅広く、楽しめる場所にもなっています。本当に進化してまして、こういうところがあるだけで玄関口として観光客の人が入ってこられる一つのとってもいい場所だと思いますが、この拠点を生かして地域を活

性化する道の駅について今後のハード面とかソフト面とかで展開とか取組とかがありましたら町長にお願いしたいです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、現在の道の駅に関しましては、海側のおさかなセンターとのすみ分け、周遊ということで、ああいう形で、ああいう場所に、ああいう規模で整備をされているというふうに認識をしております。したがって、今の施設を改修、拡充する形で新たに機能をどんどん入れていくというのは物理的にも難しいところがあると思いますので、もしも島田議員が言われるような最近の様々な機能を持ち合わせた道の駅を整備するというのであれば、現在検討が進められて、検討委員会等も立ち上がりました例えば淀江インターチェンジの跡地の活用としてするとか、そういうことは可能ではないのかなというふうに思っております。

○議員（4番 島田 一恵君） じゃあ、これで終わります。

○議長（米本 隆記君） これで島田一恵議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩とします。再開は10時55分とします。

午前10時43分休憩

午前10時55分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

次、1番、小谷英介議員。

○議員（1番 小谷 英介君） では、始めさせていただきます。今日の質問ですけれども、2つ、どちらも同じような質問になりますけれども、1つは副町長のことについて、それから2つ目は地方創生監のことについて、順番にお聞きしていきたいと思っております。

まず、1つ目、副町長の役割はというテーマで質問をさせていただきます。

ちょっと読み上げさせていただきます。町民から副町長はふだん何をされているのかという質問を私自身よく受けることがあります。恐らく、副町長は実際にはいろんなことされてると思うんですけれども、町長と比べて役割上、性質上町民の前に出る機会も少ないですし、その貢献が見えづらい部分があると思います。そこで、町民が、あるいは私たち議会が副町長の役割や活動内容について理解を深められるように、今日、以下の質問をさせていただきます。

1つ目ですね、副町長の仕事内容についてということで、具体的な、できれば具体的に、どんなことされてるのか、日常の業務内容について教えてください。

それからその中で特に今時間を割いて、取り組まれていることを教えてください。

2つ目ですね、町長が、副町長に期待されている役割についてということですが、町長が、副町長に期待する役割、まずどのようなことを期待されているかということですね。

これ2つ目が、候補者として選任されたときのお話ですけども、吉尾副町長が適任者だと町長が思われた理由について教えてください。

それから3番目、副町長御自身のお考えをできればお聞きしたいなと思うんですけども、町長からの期待を踏まえて、副町長が特に使命感を持って、使命感を感じられていることを教えてください。

その使命感を果たすために、日頃、意識的に実践されていること、努力されていることについて教えてください。

4つ目ですね、こちらでもできれば副町長にお答えいただければと思いますけれども、大山町役場組織に関して、副町長が就任後に感じられた気づき、考察などを教えてください。

特に組織風土や人材に関して、特に大山町役場職員この辺り優れてるなと思われる点についてと、それから逆に特に課題だと認識されている点について教えてください。

最後、副町長がそれらのことを踏まえて今後の任期の中で特に方針として具体的にこういったことを取り組まれようとしているというようなことについて教えてください。

ということで以上、お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 小谷議員から一般質問で副町長の役割はということでお尋ねをいただいております。順に説明をさせていただきます。

まず副町長に関しましては、地方自治法では補助機関という位置づけでございます。

そして副町長の職務に関しましては地方自治法第167条でうたわってあるとおりでありまして、長を補佐して、長の命を受け政策及び企画をつかさどり、その補助機関である職員の担任する事務を監督するもの。また、別に定めるところにより、長の職務を代理すること、一部の事務を委任され執行するとも定められているところでございます。

具体的日常業務におきましては、副町長専決事項とされた事務、そして各課の業務の進捗管理、企画時の協議、町長指示事項の割り振り・執行管理、課組織横断的な事項の調整、課長等管理職の人事管理、西部広域や西部町村の枠組みでの会議の対応、諸会議への町長代理としての出席などとともに、町長が施策構想の策定に当たっての協議・相談。以上に加えまして、職員の様々な事案、議会との連絡調整、国際交流等対外関係に当たっているところでございます。

現在、特に時間を割いて取り組んでいるもののお尋ねがありましたが、特に時間を割いて取り組んでいるものが限定して存在するわけではありませぬので、先ほど紹介した具体的業務を滞りなく進めるためにバランスよく時間を割いているところでございます。

続きまして、副町長に期待する役割につきましてですが、期待する役割としましては、先ほど御紹介いたしました具体的業務を円滑に行うことによりまして、役場の事務方トップ及び町長の補佐役として職責を果たすことに期待をしております。

また、適任だと判断した理由ですが、これは議案等議会にも諮った際にも説明をしておりますが、人格、経験、知識など、総合的に適任と判断したところでございます。

3点目の副町長の認識についてから4点目、5点目も同じようなお答えになりますが、副町長はその職責を果たして町長の期待に応えていると考えております。今般の質問は職務について副町長の認識を求めるものとなっておりますけれども、補助機関であります副町長が、個人の感想を議会答弁として述べることは、執行部組織の一体性に関わることから適当でないと考えております。副町長自身も同意見でありますので、御理解をいただきたいと思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。

なかなか難しいのかなと今聞いていて思いましたけども、どうですか、でも町長、今おっしゃられたことは一つ、合理的な判断なのかもしれませんけども、この機会に実際今、副町長がどんな考えをされてるのかなとか、そういったことについて関心のある町民は多いと思います。何かしら副町長の声も聞いてみたいなというふうに思うんですけども、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

議会の一般質問というのは、どういうことをするのかというところは決められたものがありますので、町政全般についての議論をしていくというところでありまして。個人的な見解を問う場面ではありませんので、個人的にお話が聞きたいということであれば一般質問以外の場でお願いをできればというふうに思っております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） 分かりました。

そうしましたら、町長の認識をもう少し深掘りしてお聞きできればなというふうに思います。

町長、総合的に判断というふうに言われました。副町長がなぜ候補者として適任なのかということについて、人格や経験含め総合的に判断されたということですのでけれども、もう少し具体的に教えていただければと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

具体的にというところですが、先ほど述べたとおりで、人格や経験、知識、こういったところで評価をして、最終的に今の副町長の選任に至ったというところでございます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） なかなか塩対応だなというふうに思いますけども、今日、短めに、早めに終わろうかなというふうには思っています。もう少しだけお聞きして終わろうかなというふうに思っています。

もう少し具体的にお聞きしますけども、まず経歴について、竹口町長が吉尾副町長の経歴の中で特に総合的に考える際に大きな材料となったこの経歴部分について教えてください。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

そういう質問だと答えやすいなというふうに思いますが、まず一番は、大山町、旧名和町出身だということです。生まれ育って、高校までこの地で暮らしをして、それから県外に出られてますけども、その後、文部科学省でキャリアを積まれた、それらを今までの経歴等として非常に期待あるいは評価をしたところでございます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） 吉尾副町長の御経歴は、素直にすごい経歴だと思います。吉尾副町長就任されてから、就任されるときにもいろいろ御経歴の紹介があって、一つ私的に印象的だったのは、やはり秋田の国際教養大学の初代事務局長であり、副学長も務められ、副学長、常任理事ということで、実質的にもナンバーツーとして学長の行われるもの、仕事を補佐されて、今、秋田の国際教養大学はとんでもなく入るのが難しい大学になってまして、日本の大学ランキングでもトップテンに入り、就職率も100%のような、もう本当に日本を代表する大学に今なってますけども、そこの立ち上げをされているという一つ、御経歴。

それからもう一つ、ちょっと名前が、名前ちょっとメモしたんですけども、沖縄のですね、ちょっと正確に、沖縄の科学技術大学院大学のCOOということで、こちら学長の補佐役として実際に仕事をされてまして、今こちら世界、2019年、質の高い論文の割合が高い研究機関ランキングということで第9位ということで、今、世界の中でも注目される大学のCOOとしてされていたという御経験。

恐らくこれまで大山町に、大山町出身の方の中でもかなり希有な御経験とキャリアをお持ちの方なんだと改めて、今回この一般質問臨むに当たって、すごい経歴の方が今、

副町長されてるんだなど。しかもそういったトップクラスの大学の補佐役として実際にこれまで御活躍されている、いわゆる補佐役のプロフェッショナルでもあるというふうにお見受けします、経歴上。

そのような方が今、副町長をされているというところで、当時、竹口町長が副町長に候補者として上げられた理由というのが、そういう意味でいうと推測しやすいというかなるほどなと思う部分があるわけです。

ですから私の今この一般質問としては、そういったトップクラスの御経験のある方が今、大山町の副町長として勤務されて、今3年ですかね。もっとですかね。3年たって、4年目。3年目ですか。3年目。今何を思われているのかなというところを、私個人の興味というよりも大山町民の関心事としてぜひこういった公の場で御発言いただくことは恐らくとても有意義なことなんじゃないかなというふうに思っております。町長、いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

以前にも、一般質問じゃなかったか、全協だったか、ちょっと記憶が定かではありませんけれども、今の吉尾副町長にいろいろ過去の経歴等も踏まえて話をしてもらったことがあります。一般質問じゃないので、そういう機会であれば非常にしゃべりやすいかなというふうに思いますし、恐らく責任も伴ってくるので、非常に多分本人もしゃべりにくいというのが現状なんだと思います。

どうしてもということであれば、ちょっとしゃべってみてもいいですが、それに関してちょっとあんまり突っ込みを入れないようにしてもらえたらと思いますが、よろしく願いいたします。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。どうしてもお願いします。

○議長（米本 隆記君） あとは副町長のお考え。（発言する者あり）

吉尾副町長。

○副町長（吉尾 啓介君） 発言の機会をいただきまして、ありがとうございます。

お答えするとすごく長いバージョンとそうでないバージョンとがありますけれども…（発言する者あり）質疑の残り時間と……。

○議長（米本 隆記君） 無駄口はやめてください。静かにしてください。

○副町長（吉尾 啓介君） 2問目の関係などもちょっと全体見まして、お話ししたいと思います。1対1対応でのお答えになりませんが、それでお許しをいただければと思います。

副町長というポジションを自分としてどうわきまえているかというところで、人によっていろいろなスタイルがあると思います。先ほど私の経歴で御紹介がありましたように、若干普通でない組織の若干普通でないトップを支えて成り立たせるというような仕

事をしてきた経験から、私自身も若干ちょっと違うスタイルを取ってきているので、あまり変えようがないまま、大山町の、じゃあ副町長としてどういうスタンス取ればいいのかということは来る前にも考えて、それを維持しておりますが、一つは、そのトップ、リーダーが実現したいという施策をいかにアイデアを仕事の形に落とししていくかというトップを向いてる面と、それから実際仕事はそれぞれつかさ、つかさといいますか、担当の課があって、担当課長がしっかりやっておられるわけで、その担当の課長、管理職がトップの意向を十分に理解して、その線で動いていけること、そして実際各課長というのは課員の人事管理でありますとか、議会对応あり、予算があるない、住民さんとのいろいろな日々の関係という中で仕事しているわけで、いろいろな困難に直面して、課長が基本的に対応されますけど、課長だけで片づかない仕事もたくさんあって、ちょっと責任者出てこいというようなときには出ていくかみたいな場面もあります。

それからやっぱり組織というのは、どうしても幾ら連携するとか言っても実際縦割りにならざるを得ない。それはいい面もあって、自分の守備範囲がきちりありますということの表れでもあるんですけども、でもやっぱり連携しないといけないというようなところについては、それぞれの課長で相談しろよという指示の仕方もありますけれども、そうでないところはまとめ役なりなんなりというのをリーダーの意向を体し、各課の状況を見た中でどういうふうにまとめていくかというようなところで、出番があれば出てって、あるいは出番がなくても何となくこの辺が危なそうだなということであれば出ていってというようなことで動いて、大山町の役場組織全体がちゃんと回っていくということをきちんとやるというのが基本的な役割であるという理解でやってきております。

それでどういう印象を受けて、何を課題意識として、どうやっていきたいのかというところですけども、役場職員、会計年度さん入れるとすごい人数なりますけれど、いわゆる正規職員というレベルでも200名を超える職員がいて、もう一人一人が十分に力を発揮していただければいいですし、ある程度の数の人には1馬力ではなくて一騎当千ぐらいの仕事をしてもらいたい、そうしてくださってる方もいらっしゃいますけれど、そういった職員の方々が力をつけて、力を発揮するようなことをやってかないといけないのかな。それどこの組織もそう考えていると思います。

なかなか日々の業務で忙しい中で、そういったことどうしていったらいいのかなということは赴任するときから考えていましたが、誠に申し訳ないことになかなかそのところまで私も十分に時間を費やすことができおりませんが、職員にとって自分の仕事が、自分の仕事の成果感じられて、やりがいを感じられるような仕事のやり方、組織のつくり方、執務環境の整え方といったことが具体的な課題として取り組まなければいけないと思っております。任期残すところ1年数か月でございますけれども、そのような中でそういったところにも目を向けて、町長、管理職の関係課長とも十分に相談しながら私の着任前より任期終了後には組織としてより強靱な組織になったなという

ふうに感じていただくように取り組んでいきたいなというふうを考えとります。以上です。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ちょっと突っ込みは入れるなという要望でしたので、要望といいますか、条件でしたので、突っ込みは入れないんですけど、逆に突っ込みというよりは、もしお話しできるのであればお話ししていただきたいなというところでちょっと投げてみたいと思うんですけど、実際にこれまで目覚ましい成果といいますか、実績をお持ちの副町長で、これまでの成果を上げられてきたその環境と、今この大山町役場の置かれている環境で何か明確に環境として違う部分、成果をもし、今どれぐらいの成果を上げられているかというのをお話しされるのも難しいと思いますし、我々もそれについてはかかることも難しい状況であるんですけども、仮に今、以前の環境ほどうまくできていない部分があるとすれば、それはこういった要因があると思いますか。どのような環境の違いがあると思いますかという点について、この辺りが今までとは違うということがもしあれば、あるいはそういったことお答えできればお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

期待されてると思いますので副町長が答えますが、先ほどつらつらと答弁しました。これも副町長の能力の一つだと思っていて、基本路線、一般質問だから副町長が個人的見解を述べるのはないと。これどこの自治体もそうです。うちもその基本路線で行くわけですが、万が一副町長のコメントするような場面に及んだときにどうするか。そこで準備してませんだと話にならないわけですね。しっかりその辺の準備をしていたというところで、その評価の部分も分かったのかなというふうには思いますし、あとはちょっとあんまり自画自賛するみたいであれですけど、一般質問の答弁のやり取りずっとしてもらってたらすごく何か安心感あって、ゆっくり見とられるなというふうに思いましたので、引き続きちょっと副町長が答えたいと思います。

○副町長（吉尾 啓介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 吉尾副町長。

○副町長（吉尾 啓介君） 環境ということについては、物的とかいろんな意味ありますけれども、秋田も開学したばかりで、人はそろってないわ、雨漏りはするわ、全然名前は知られてないわという決して、当時の秋田県議会との関係も難しいわというので、すごい逆風という環境の中にありました。

沖縄の場合は、予算はもう潤沢に措置して、ここでそんなこと言っているのかとよく分かりませんが、予算がより欲しかったというのはありますけれども、組織回すのに困るということはなかったのですけれども、職員構成からして日本のやり方が通じ

ないという組織をどう回すかという意味では、それはそれで大変でした。

大山町役場の環境というので、与えられてる環境で難しいところがあるとしたら、執務環境でやっぱり課が分散している。普通だったらぶらっと廊下歩いて行って、あれどうなるとかということコミュニケーションができてるようなことが、やっぱり何かやりにくいというのはみんなあるのかなという、その辺のところと、あとはやっぱり会議スペース、打合せスペースがなかなか厳しくて、職員間あるいはいろいろ訪ねてこられる方々と機動的にいろんな打合せとかが何かしにくい中でみんな仕事してるなというのは感じてまして、とはいってもそうは簡単にいかないところではありますが、環境について感じているというのはそれだけです。

あと一つ、決定的に私自身についてありますのは、秋田にしても沖縄にしても大学のマネジメントですので、およそ大学はこういうもので、国の制度はこうなっていて、自分なりに高等教育論的に思うところもあってという中で仕事をしておりましたけれども、役場、基礎自治体がどういう仕組みで、どう動いているというところについては全く知らずに参りましたので、こんな毎月のように議会お願いしてるとかいうことも思ってもおりませんでしたし、頻繁に補正をやらないと業務が回らないとか、そういう中で動いていて、いろいろKPI どうなんだという御質問ありますけれども、そういったようなものの設定とか評価というのなかなか難しい中で物事動いてるなという中でどういうふうに業務として整理していくのかなというところが、私自身の経験が十分でない部分がありましたので、そういったところで十分に期待に応えられていないところがあるのかなという、準備不足と経験不足というところが私としては十分にできてなかったのではないかなというふうに思っております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） いろいろお答えいただいて、ありがとうございます。

調子に乗って、もう一つだけちょっとお聞きしたいなと思うんです。これも町長の判断で、もし不適當だと思えば町長のほうで返していただいてもいいんですけども、いや、結局今、町民目線なのか、要は大山町のためという意味合いで質問をさせていただくとすれば、これは私、今までにこういった場で竹口町長のスタンスとかマネジメントのスタイルについて、どちらかといえば批判的に言わせていただくことが過去にありました。具体的には役場内の風通しが悪いんじゃないとか、それからボトムアップというよりはトップダウンのスタイルの色が濃くて、なかなか職員の自発的な取組につながってないんじゃないとか、ワンマンなんじゃないとか、そういった批判的な言葉を言うことが過去にあったと思います。これはいろんな側面というか、実際にリーダーが竹口町長のように強い思いでというか、行動力があって、ある意味こういったことをやっていくんだという強いリーダーシップを発揮すればするほど、そういったワンマン、裏を返せば周りがついてこないとか、下の反発があるとかということとは、これはコインの

表と裏じゃないですけども、そういった側面というのは多かれ少なかれどんな組織でも、どんなリーダーでもあると思うんです。リーダーがそういう強いリーダーであればそういった批判も出るし、逆にリーダーが柔軟性のあるリーダーであれば、あのリーダーは一貫性がないとか、何を考えてるか分からないとかということを言われてしまうリーダーもいるでしょうし、ですから一概に、私が今まで竹口町長に対して批判的なことを言ってきましたが、それはある意味で竹口町長が強いリーダーシップがあるという部分でもあると思うんです。

今、竹口町長どちらかというとなんかそういう強いリーダーの部類に入るリーダーなのかなと私、議会に入ってお見受けしてるんですけども、その強いリーダーシップを発揮するときに一番求められるのが、役場組織のチームの調和といいますか、いかに強いリーダーがいたとしても下のメンバーがついてくるように、ぎすぎすした雰囲気にならないようにできるかというところが問われるのが組織運営だと思います。

そのときに副町長の役割というのは、とてつもなく重要な役割を求められると思います。具体的には副町長は、町長の補佐役として政策の相談役であったり、参謀であったりという側面もありながら、組織のメンバーのある意味代表として町長に言うべきことは言うという側面が求められると思います。その意味で吉尾副町長は、役場組織内ですぐと働いていた方ではなくて、外部で活躍されて、外部から来られている副町長なので、ある意味その面では役場組織内からの昇格して副町長になる方に比べると不利な部分があったりすると思いますし、最初、就任時、特にやりづらい部分というのは当然あってしかるべきだと思います。

ただ、今、大山町役場、副町長1人しかおられませんので、東京都だと4人副知事おられますけども、大山町だと1人しかおられませんので、どうしてもその役割というのは中心として担う必要があると思います。この点について今までいろいろ先ほどおっしゃられたように模索されてきた部分もあると思いますけども、残りの期間、残りの任期の中でこのチームの調和とか、役場の職員の代表として町長に言うべきことは言うとか、そういった部分の役割を副町長にはぜひ期待をしたいと思うんですけども、この期待に対して今後こういうふうな、具体的にこういうところにも気を払って取り組んでいきたいですとか、何かそういった今後の考えについてお聞きできればうれしいなと思います。いかがでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

少し答えてから副町長に振りますので、全部答えませんが、小谷議員言われるところはごもっともなところがあると思っていて、全てにおいて万能な形で組織の先頭に立ってトップをやっていくというのはなかなか難しいと思っていて、どんな組織見ても、言われるみたいにリーダーシップ発揮すればその副作用みたいなものが出てき

たりとか、その逆だと何かリーダーシップがないと言われてみたりだとかいうことで、どこの組織もみんな迷いながらやってるんだらうなというような感覚ではあります。

その上で、やっぱりチームなので、副町長に役割をしっかりと果たしてもらおうというところは大事だと思ってます。

あんまり外向きには見えないかもしれませんが、内部協議で副町長といろいろやり取りすることはたくさんありますし、副町長とも1対1で個別に時間を取って、雑談も含めてコミュニケーションを取ったりだとかいうようなこともしています。それによって意識のずれだとかいうことを少なくしながらチームとしてうまく役場組織、行政組織を回していくというようなことで取組をやっております。

もう一つ言及しますと、今、東京都には副知事が4人いてという話がありました。4人もいるんだなと思いましたがけれども、ほかの自治体で2人副市町村長がいるというようなところもあります。うちの場合、1人なんですけれども、当然副町長の業務量も膨大ですから、消化不良になってしまう部分もあるかもしれません。そういうときには当然今、総務課長、私の後ろに座っとりますけども、総務課長がある意味その下で職員を束ねてやっているというところなんです。特に副町長は外部から来てます。私も外部から来るとようなもんですけれども、外部から来てる。生え抜きで職員の一番上は誰かといったら総務課長ですから、ある意味、ちょっと表現悪いかもしれませんが、御意見番的な感じで、大体うちの総務課長ずけずけ言いますから、私にも全然遠慮なくずけずけ言いますね。職員からこういう話もあるとか、議会からこういう話があったとか、いろいろどんどん声を出してくれるのは今の総務課長であって、そういうところで副町長1人に全てのバランスを取らせるというわけではなくて、総務課長も含めて大体どういうふう組織を調和するのかというところを考えながらやっているというところがございます。なので、副町長も確かに評価をいただいてあれですけども、総務課長も実際よく頑張っていて、大変なポジションですけど、やっている。この辺の頑張りによって私がいろいろあだこうだやっていることと職員の調和、組織の調和を取ってもらってるというような状況でございます。

続きは副町長が話したいと思います。

○副町長（吉尾 啓介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 吉尾副町長。

○副町長（吉尾 啓介君） 考える時間を与えていただきまして、ありがとうございます。

あれですね、画面があるから多分理解していただきやすいと思いますけど、町長はこっちの方向を言っていると。だけど、事務方は、いや、それはといて言ってるというケースというのがあったりしますが、そのとき私はどの辺りにいるのかというと、真ん中と言いたいところですけども、ちょっと町長寄りのほうで、じゃあ、町長がこう言ってるけれども、みんなはこれは問題だとか、難しいと言ってるというのであれば、こちらのほうでそれどうやったらできるとか、何がまずいとか、この角度を狭めるような動き

をして過ごしてきておまして、そこで、別にこれ対立軸でも何でもないので、業務や  
っていく上でみんなが意見一致してるというのもいいですし、それまた危ないときに点  
検しないといけないという面もありますが、こういうのは当たり前にあるので、その中  
でどう調整していくのかなという立場で、町長との打合せの中で、これはこの辺を根回  
しをしといたほうがいいんじゃないですかとか、この辺のところで動きませんから今年  
はちょっと見送ったほうがいいんじゃないですか、そんな話をいろいろする場面もある  
という立場にあります。

その中で職員との関係については、職員個々がどういうバックグラウンドがあって、  
地域がこういうようなところがあるのではというようなことについては、先ほどお話あり  
ましたけども、総務課長が非常に全体よく把握しておりますので、総務課長といろいろ  
相談してみて、総務課長が駄目だと言うなら、これなかなか難しいなというようなこと  
も考えながら実際の町長との協議、相談はさせていただいてますし、私と町長との間で  
物決めるという場面はほとんどなくて、じゃあ、みんなで話しして、いろんな意見があ  
るだろうけれども、それは最終的にリーダーである町長がみんなに話をした上で決断す  
ることなら決断することですねというような場面も幾つかあります。その中で、ここ  
こだけで何か決めろというのはなかなか難しく、この間に入って落とすところとい  
いますか、進むべきところを探るのが自分の役割かなというような立場にあります。

言うべきことを言ってるかどうかというところですけども、言うべきことというの  
で最低限必要なのはコンプライアンス的にどうなのか、それから物事の決定の仕方でガ  
バナンス的にそれはありなのかというようなところは常に注意して仕事させていただ  
いております。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） ありがとうございます。

次の質問に移りたいと思います。次は、この今年度から新しいポストができました。  
地方創生監ということで、山根地方創生監が就任されてますので、ぜひその辺りにつ  
いてもお聞きできればというふうに思っております。

通告内容としては、こちらになります。すみません。通告内容。副町長への質問と同  
じような趣旨になりますが、新たに就任された地方創生監の役割や現在の動きについて、  
町長から説明をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 小谷議員の2問目の質問にお答えをします。

その前に、さっきの勢いで総務課長も手挙げて何か語り出すかなと思って期待をして  
おりましたが、手挙げませんでした。そこがうちの総務課長がどっしりと構えていいと  
ころでありますけれども、あの流れでいうとちょっと何か聞きたいなというような感じ

がもしかしたらあったかもしれませんが、またそれは後ほど聞いていただけたらと思います。

2 問目の質問、地方創生監の役割ということでお尋ねをいただきました。

これは環境省との人事交流ということで、今年度から2年間の予定で山根地方創生監に就任をしてもらってますけれども、実際着任するときにも話をしたことと少し重複するかもしれませんが、一通り説明をさせていただきます。

まず地方創生監設置の視点ですけれども、大山をはじめとした大山町の環境を活用した施策を中心に企画、展開する観点から、環境省からの出向を得て、地方創生監を設置したところであります。

まず位置づけとしましては、副町長と課長の間にあるスタッフ職、副町長に組織図でいうとぶら下がっているというようなポジションの職であります。

担当事項としましては、現在のところ、次期総合計画策定、地方創生関連事業の取りまとめ、それからアウトドアライフ構想の推進と統括、これは自転車活用推進も含んでおります、それから環境・エネルギー等SDGs、ごみ関係、水質、ゼロカーボンシティ宣言なども含んだネイチャーポジティブの取組等を担当してもらってます。まだ今3か月目ですので、これからまだまだ中身としては増える可能性もありますが、現在のところそういったところと、あわせまして、これらの横串課題、一つの課で終わることもあれば、複数の課にまたがることもありますので、これらを横串を通す役割として仕事をしてもらってます。

さらに、その地方創生監だからということではなくて、環境省から出向を得ているということで、環境省とのつながりですとか今までの経歴を生かしてもらって、本人の専門性を十分に生かしてもらうというところに期待をしているところでございます。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（1番 小谷 英介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 小谷議員。

○議員（1番 小谷 英介君） 先ほどの副町長のときのようなイメージで、ぜひ地方創生監についても何かお話しただけたらなと思うんですけども、町長が今答弁の中で専門性を生かして、本人の専門性を十分に生かしてというふうに言われましたけれども、この辺り専門性についてももう少しお話し伺って、聞いているみんなが今後にすごく期待ができるようなお話聞けたらなと思っておりますので、町長、その辺り差配をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

個人的な意見を聞くというのは、組織の一体性に関わるということですのでお答えは差し控えるというふうに言いたいところでありますが、期待されることもあります

のでしゃべってもらいたいと思います。

特に今、着任してすぐなので、こういう場をいただけて、本人としてはすごく自己紹介、ある意味ちょっと深めな自己紹介ができるような場面でもあると思っておりますので、ありがたい機会かなというふうに思っています。

思い返しますと、ちょっと余談ですが、私が議員してたときに、内閣府から当時出向して来られた赤井さんという方がおられて、その方が着任してすぐの直後の一般質問のときに私同じ質問して、ちょっと本人にしゃべってくださいよみたいな質問をしたことがありました。そのときは事前にいいですかということを確認したらオーケーということだったので何かした記憶があって、小谷議員の気持ちよく分かりますので、しっかり山根地方創生監にしゃべってもらいたいというふうに思います。

○地方創生監（山根 篤大君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 山根地方創生監。

○地方創生監（山根 篤大君） 貴重な機会をいただきましてありがとうございます。

この4月に着任いたしました地方創生監の山根です。前職の環境省では、自然環境の分野を中心に東京の本省や全国の国立公園の現場、そういったところを転勤しながら、自然の問題だけではなくてそれと一体となった地方の課題、各地域の課題に向き合ってきました。

実は私、まず町長からもありましたけれども、今は町の一職員の立場ですので、個人としての印象等についてこの場で、議会の公の場でお答えさせていただくことは大変恐縮ではございますけれども、答弁を踏まえて簡単にお答えさせていただければと思っております。

私、実は着任前にも観光などで何度か大山町を訪れたことがあります。私が思ってる大山町の魅力というところは、やはりまず国立公園大山から豊かな里、川、海までの一つながりの大自然がある。そこに奥深い伝統、文化、歴史があるということがあります。これは恐らく大山町に関わっておられる方々皆様も同様に誇りに思われてるところじゃないかなと思います。

その上で、私が何度も大山町を訪れるリピーターとなったのは、それに加えてこの大山町で活躍されている魅力的な人に出会ったからであるというふうに思っております。ですので、この自然、文化、そして人という魅力を生かして取り組んでいくということが大山町にとって肝要なことであるというふうに思っております。

そして、御質問ありました、専門性を生かした使命感というところですか。使命感としまして、この日本の自然あるいは大山町の自然というものは先人たちの知恵と努力によって受け継がれてきて今あるというふうに思っております。ですので、やはりこれをまた今の世代の我々も知恵と努力を凝らして後世に受け継いでいくことが必要だろうと。それが大山町、日本全国あるいは世界全体のためになるだろうというふうに思っております。

その観点から、例えば昨今では地球温暖化、問題になっております。例えば海の磯焼けの問題だったりとか雪不足の問題だったりとか、あるいはカメムシの生態が変わっていたりとか、いろいろなところで生活のところにも影響が及んでいるというふうに言われております。ですので、やはりこういった地球温暖化対策としてゼロカーボン、脱炭素を目指して取り組んでいくということは必要なことであると思っておりますし、大山町においてもそういったことをしっかりと進めていければというふうに思っております。

またこういった、今のはあくまでも環境問題の一例ではございますけれども、こういった環境問題全般に対する取組の姿勢、地方自治体としての取組の姿勢というものも昨今の社会あるいは個人にとって興味や評価の対象となっているというふうに思います。そういった観点も持ちながら取り組んでいければと思っております。

そしてこういった取組を進める上でも、やはりこの大山町の強みというものがそういった農林水産業だったり、あるいはアウトドアアクティビティ、アウトドア事業、こういったものが盛んである。つまり日頃からそういった自然、環境に触れ合っておられて、実感を持って関心を持っておられるという方が多くおられるということだと思えます。

そして、それに加えて「大山さんのおかげ」という言葉があるというふうに教えていただきました。こういったやはり自然の恵み、大山の自然の恵みによって私たちの生活が成り立っている。そういった共通の認識、哲学、そういったものがしっかりとこの地域に根づいているということ、これも非常にこの大山町の強みじゃないかというふうに思っております。

以上のような個人的な思いではございますけれども、こういった思いを持ちまして、現場をよく知る方々、多くの方々にお会いして、御意見だったり課題感というものを伺いしながら、また実務の面では竹口町長、吉尾副町長、そして各担当の職員の皆さんとしっかり連携しながら、横串の発想を持って持続可能な地域づくりというところに取り組んでいければというふうに思っております。以上です。

○議員（1番 小谷 英介君） 質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（米本 隆記君） これで小谷英介議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） 次、14番、岡田聡議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 2問通告しております。読み上げて質問といたします。

1 問目、防災・減災対策を一層高めて安全なまちに。

阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震、そして今年の1月1日の午後4時に能登半島地震が勃発しました。元日の夕刻、多くの人々が楽しいお正月気分できつろぎ、あるいは夕げの支度を始めている、そういった状況の中での震度7という大地震。多く

の家屋が一瞬に破壊されました。犠牲になられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された多くの方々の安寧と一日でも早い復興をお祈りしたいと思います。

このようなすさまじい地震の被害を報道で見聞きする中で、少しでも被害を少なくするにはどうすればいいだろうかと深く考えさせられました。天災は忘れた頃にやってくると言われていましたが、今や記憶も薄れないうちに大地震が起こっています。

今回の能登半島地震では、多くの古い家屋が倒壊しています。その数は熊本地震を上回る8,795棟にも上っています。そういう状況の中で、比較的新しい住宅は倒壊を免れています。倒壊した建物の下敷きになった多くの犠牲者が建物の耐震性の重要さを浮き彫りにしています。道路が亀裂や陥没、崩落などで寸断され、救護する人、機材等や救援物資が運べなかった。そのため助かる命も助けられなかったと思われまます。至るところで停電や断水が発生し、長期にわたった。また、輪島市では倒壊家屋から出火し大規模火災が発生した。電気配線からの出火のようである。阪神・淡路大震災の原因が判明している火災の6割強が、東日本大震災では7割近くが電気火災だったと言われています。避難所では、長期間入浴できない、プライバシーが守れず着替えもままならない、通常の災害対応備蓄品以外のものも必要とか、要支援者や要介護者への対策なども問題視されました。その他様々な課題が指摘されています。これらを重要な教訓として生かさなければならぬと考えます。

以上のことから、大山町として貴重な人命や財産そしてインフラを守る観点からできる限りの備えや対策が必要と考え、以下の項目の質問をいたします。

住宅家屋の耐震化の推進、本町の耐震化率は幾らですか。それを推進するに当たっては、家屋の耐震診断が必要である。まずは1980年以前に建築された木造家屋を把握し、耐震診断調査を行政が行ってはどうか。鳥取市や米子市は無償で行っている。

耐震改修が必要な家屋は住居者に知らせ、耐震改修を勧める。手厚い補助制度が必要と思うが、拡充する考えはないでしょうか。鳥取市や米子市は、国、県の補助制度と合わせて改修工事費の5分の4、上限100万円。伯耆町、八頭町も新年度予算で増額予定のようでございます。鳥取県は上限を100万円から120万円、今年度から引き上げるようです。

(2)家屋全体の耐震改修が困難な町民には、ふだん多く使う部屋だけとか寝具の周囲だけとかの耐震改修を勧める。これらの補助制度も検討できないか。県は耐震シェルターの補助制度も設けており、高齢者や障害者、要介護者が導入する場合は補助率を新年度から23%を80%、上限80万円に引き上げるようでございます。

(3)感震ブレーカーの設置を住宅密集地区から進めてはどうか。できれば補助制度も。

(4)水道管本管の耐震化推進。本町の耐震化率は幾らですか。まずは配水池からの配管、そして地盤の弱い地域、人口密度の高い地域から順に行っていく。令和6年度から上水道の管轄が厚生労働省から国土交通省に移管されたようであるが、予算の獲得が有利にならないか。

(5)給水車の緊急借用先の確保。避難所用の自家発電装置は必要ないか。

(6)避難所の対策。プライバシーを守るためや心身の疲労を軽減するためにも、段ボールなどの仕切りや、望ましいのは天井つきの段ボール室や段ボールベッドなど緊急調達先の確保。確保できない場合は、着替え用の仕切りとか部屋の確保が必要だと思います。

(7)備蓄品の追加。小児用おむつや大人用おむつ、生理用品なども。

(8)万が一のための移動式トイレの緊急調達先の確保。

以上、よろしく申し上げます。

○議長（米本 隆記君） 昼、時間前ですけども、答弁に時間がかかるとお思いますので、ここで休憩といたします。再開は午後1時とします。

午前 11時 58分休憩

午後 1時 00分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

午前中に引き続き一般質問を続けます。

午後は町長答弁からです。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 岡田議員の一般質問にお答えをいたします。

午前中に質問が終わって、一度休憩で途切れたので、答弁からスタートということになっております。ここから御覧になられた方、よく分からないと思いますが、ユーチューブに録画配信等ありますので御覧いただければと思います。たくさんありますので答弁だけ、質問を繰り返さずにいきたいと思っております。よろしく願いいたします。

まず、1点目の本町の耐震化率についてのお尋ねですが、これは60%程度と見込んでおります。

また、1980年以前に建築された木造家屋を把握して調査を行ってはどうかというお尋ねでしたが、昭和55年以前に建築された木造家屋のデータというものは持ち合わせおりませんので、町が調査をして耐震診断をするのは無理があろうかというふうに考えております。

また、平成12年5月31日以前に建築されました戸建て木造住宅の耐震診断については大山町木造住宅耐震診断事業を設けておりますので、建物所有者から申請がありましたら町から診断士の派遣を行いまして耐震診断の実施を無料でしております。

また、耐震診断の結果倒壊の危険性があるものにつきましては、大山町震災に強いまちづくり促進事業によりまして、改修費用の5分の4、最大120万円の補助制度を設けているところでございます。

2点目の耐震改修の部分的な取組に対しての補助制度のお尋ねですが、現在大山町におきましては補助制度を設けておりませんが、今後創設に向けて検討していきたい

いと思います。

3点目の感震ブレーカーの設置のお尋ねですが、地震によります建物の出火及び延焼を防止することによりまして、被害の減少並びに県民及び地域の防災力の向上を図るため、鳥取県において感震ブレーカーの補助制度が創設される予定となっております。これは市町村が感震ブレーカーを設置する世帯へ補助金を交付した場合に、鳥取県が市町村負担額の2分の1を上限に市町村へ補助するものであります。鳥取県から急遽案内があった制度でありますので、大山町における補助制度の創設については今のところ未定であります。

4点目の水道管の耐震化の関係のお尋ねですけれども、まず令和4年度末の水道管の耐震化率は34.9%となっております。管布設年度が古く基幹となります管路から更新を行っております。

また、所管が替わった件のお尋ねですが、水道事業を行うための交付金交付要綱というのは従来どおりでありますので、今まで以上の予算確保は見込めないというふうに考えております。

5点目の給水車の緊急借用先についてのお尋ねですけれども、大山町の上水道施設が被災した場合にはまず県内西部地区の市町村で構成しております水道技術管理部会に応援要請を行いまして、それでも難しい場合は日本水道協会の支援を仰ぐこととなります。

次に、5点目の避難所用の自家発電装置は必要ないかというお尋ねですけれども、現在避難所に4施設設置をされているところでございます。

6点目のプライバシー対策品のお尋ねですが、プライバシー対策品としましては2人用のテントを20張保有しているところでございます。

7点目の備蓄品のお尋ねですけれども、鳥取県内におきましては、災害時に必要と見込まれる物資または資機材の標準的な品目及び数量等を連携して備蓄をしておりますので、災害により被害を受けた市町村の応援を迅速かつ円滑に連行することを目的としまして、鳥取県が定めた県及び市町村の備蓄に関する連携体制整備要領が定められておりますので、おむつや生理用品など定められた目標数量を既に備蓄しているところでございます。

8点目の移動式トイレの緊急調達先の確保のお尋ねですけれども、緊急調達先の確保はしておりませんが、トイレカーにつきましては県を通じて確保することになるかと思っております。

以上で答弁いたします。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 木造家屋の耐震化率の関係ですが、能登半島地震で大きな被害をこうむった珠洲市の場合は51%程度、輪島市は45%、非常に低かったのが被害も結構大きかったという感じがいたしますが、全国平均では87%、大山町は60%程度ということですので、平均からいけば結構古いのではなからうかと思っておりますが、

国の一応の目標は、令和12年までに耐震性が不十分である住宅を解消していくというような方針を打ち出しているようですが、鳥取、大山町、特にそんなに大きな地震は来ないだろうという、内心安心があるかもしれませんが、想定外のことが起きることは十分考えられますので、現状の予算でも年間耐震化の予算が1戸か2戸分程度ということで、非常に耐震化率を向上するという熱意はあまり感じられませんが、東海地震を予想されています静岡県なんかは、県を挙げて非常に耐震化率進めているようでして、01年度からずっと22年度末時点で2万6,000ぐらいの改修、あと2年ぐらいで95%に達するというような状況です。せっぱ詰まった必ず地震が来るであろうというところで対策されてると思いますが、鳥取県も県を挙げて大山町もそういう方向で少しでもその耐震化の予算を増やす考えはございませんか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

先ほどお答えしたとおりで様々な制度を設けておりますので、引き続き周知をして利用いただけるようにしていきたいというふうに思っております。

また、必要な予算については、しっかり国、県等に伝えながら確保していきたいというふうに思っております。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 予算が少ないということは町民からの要望も多分少ないということだろうと思いますけども、そこ辺り何とか、一たび地震が起きれば非常に人命に関わる被害が発生するということをもっともっと町民の方々に知らせて改修費用というものを補助していただきたいんですけども、この耐震化率の上昇について、耐震改修について改修費、一般的な家屋でどの程度か御存じでしょうか。もし御存じであれば教えてください。そのうちの例えば120万円の補助。県の制度ちょっと、町の制度が120万円上限になってますので、改修費用どの程度補助で、助成で補填できるのか、そこら辺りお願いいたします。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員、ちょっと聞き取りにくいのでもうちょっとマイクのほうへははっきり言ってください。お願いします。

○議員（14番 岡田 聡君） はい。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 改修費用のお尋ねですけれども、その改修する内容や現状の家屋の状態、またその大きさ、それによって開きがあるものというふうに思っております。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聰君） 大幅な例えば壁を全部外して改修を行うというのも基本でしょうけども、壁はそのままにして改修するようなそういう安上がりというか取り組みやすい工法もあるそうですが御存じでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

様々な耐震改修の工法があることは承知をしております。

○議員（14番 岡田 聰君） 次、行きます。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聰君） 次、感震ブレーカーの件についてですが、鳥取県において感震ブレーカーの補助制度が創設される予定、6月県議会に予算計上ということが上がっておりますが、鳥取県から急遽案内があった制度ということで本町においてはまだ創設について今のところ未定ということですが、これもぜひぜひ必要な制度だと思いますので、ぜひ大山町でも実施していただきたいんですがどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まだ十分な情報がありませんので、今後しっかり検討していきたいと思います。

○議員（14番 岡田 聰君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聰君） 次に水道管の関係、耐震化率が34.9%。この水道管の布設替え、耐震化には非常に大きな費用がかかるんでなかなか難しいとは思いますが、一般的に水道管の耐用年数は大体40年と言われておりますが、いろんな条件下によって40年を延びても使えるところもあると思いますが、町内の布設管どの程度、年度いろいろあると思いますけども、どの程度たっているんでしょうか。経過年数。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えをさせていただきます。

○水道課長（大前 満君） 議長、水道課長。

○議長（米本 隆記君） 大前水道課長。大前満君。

○水道課長（大前 満君） 町内の水道管でございます。令和4年度の数値でございますが、40年以上経過している水道管が全体の約4%でございます。

○議員（14番 岡田 聰君） もう一度、すみません。何%。

○水道課長（大前 満君） 4%でございます。

○議員（14番 岡田 聰君） 4%。

議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 米子市の例を挙げて申し訳ないんですが、ちょっと大きな自治体のあれですが、米子市は水道が米子市全域と日吉津村、それから境港まで全部カバーしておりますが、積極的に耐震化に取り組んでいるようでして、年間10キロの布設替えを、耐震化を目標に上げてやってるそうですが、10キロメートルの耐震化となると非常に巨額の金がかかるわけですが、年間6億とか7億とかそんな予算でやっておるわけですが、それぐらい危機感を持ってやっている自治体もあるということですが、大山町、小さな自治体ですので、なかなか水道管の耐震化、積極的に取り組んでいくのは難しいとは思いますが、例えば少しずつでも、特に地震があれば破壊されるいう、想定されるような箇所から少しずつでも耐震化を図っていく必要があると思いますが、その点についてのお考えはどうでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今までも危機感を持って耐震化を進めてきているところでありますし、これからも進めていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） いざ災害が起こって避難所開設、避難をしなければいけないというような状況になった場合に、例えば何日間、かなりな長期避難所で生活しなければならないという事態も起こりかねませんので、そこら辺りもっともっと備えが必要だと思いますが、自家発電については町内4施設には設置済みということでございます。それから、2人用のテントを20張程度保有ということですが、これまで災害地区で結構使われております段ボールの仕切り、望まれるのは屋根つきの仕切りですが、ここに家庭、家族単位で避難生活を送れるよう、そんなものの備蓄あるいは調達先の確保ということは考えていらっしゃいますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○総務課長（金田 茂之君） 議長、総務課長。

○議長（米本 隆記君） 金田総務課長。

○総務課長（金田 茂之君） お答えをいたします。

段ボールの仕切りにつきましては、御承知のとおり段ボールはかなりかさばります。備蓄するにしましてもそういった保管スペースが必要ということになりますので、現段階ではテントという格好でそのプライバシー保護をさせていただいておるところであります。

また、あとはその調達先でありますけれども、現在のところ TENT を保有しておりますのでそこまでは今のところ検討しておりませんが、今後検討はさせていただきたいというふうに思います。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 木造家屋の耐震化改修について、もうちょっと町のほうからぜひひ町民の皆さんへもっと PR、こういうことが必要だということを PR する考えはないでしょうか。もちろんそうするためには予算も増やす必要があるんですが、そこら辺りのお考えはどうでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 今後も必要な取組に関してはしっかり周知をしていきたいと思っています。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 次の質問に参ります。消滅自治体からの脱却施策は。

今年の4月に有識者グループ、人口戦略会議が2050年までの30年間で消滅する自治体として全国1,729自治体のうちの43%、744自治体を発表しました。鳥取県内では8町の名が上げられています。10年前に日本創成会議が発表していた消滅可能性のある13自治体のうち、今回脱却することができた自治体は5自治体でございます。鳥根県に至っては、実に12もの自治体が脱却しています。子育て支援・人口減少対策に力を入れてきた大山町が脱却できなかったことはとても残念でございます。多くの新築住宅が増えた大山口周辺や名和地区の状況を見ると、どうしてという感じでございます。自信を持って子育て支援・人口減少対策を進められてきた町長としても同じだろうと思います。

この問題は一自治体では解決することが難しく、国全体の重要問題として対策すべきものですが、それも期待できない現在、自治体としてできること、それを最大限努力し町民が住みやすく生きがいを持って暮らせるまちを目指さなければならないと考えます。以下の項目を問います。

(1)隣の町や西部の2町などは10年前の消滅可能性自治体から今回脱しているが、どういう施策が功を奏したのか。我が町とどこが異なってこういう結果が出たのか、町長の認識は。

(2)隣町では、東京の出版社が毎年発表している住みたい田舎ランキングで去年と今年、人口1万人以上の町部門で総合1位に選ばれていますが、参考となる施策はないのか。

(3)自治体消滅の判断基準は2050年までの30年間の20歳から39歳までの女性の減少率が50%以上だが、本町の状況を把握していますか。過去10年間の数値は

でしょうか。

(4)若い女性の転出が多いのはジェンダーギャップが原因と言われていますが、若い女性が欲する魅力的な職場や仕事、幸せを感じられるライフスタイルなど、行政として手助けできる対策はないのか。

(5)世界経済フォーラムが2023年発表のジェンダーギャップ指数では、日本は156か国中121位、先進7か国(G7)では最下位が続いています。改善していくためには、意識改革や社会のしきたりなどを変えていく必要があると思います。小さい頃からの教育が大切だと考えますがどうでしょうか。

(6)ジェンダーギャップが解消される町を目指し、これまでの政策、戦略を再構築あるいは再検討が必要ではないでしょうか。以上。

○町長(竹口 大紀君) 議長。

○議長(米本 隆記君) 竹口大紀町長。

○町長(竹口 大紀君) 岡田議員の一般質問にお答えをいたします。

まず、1点目の消滅可能性自治体に関するお尋ねですけれども、先ほど質問に上げられた町と大きな施策の違いはないというふうに認識をしております。

人口戦略会議の分析結果で、先ほど御紹介もいただきましたけれども、大山町におきましては、もともとの数値が低いという、数値が悪いというようなところもありますので消滅可能性自治体に変わりはありませんけれども、若年女性人口減少率が改善をしている自治体となっております。大山町の数値に関しましては、先ほど岡田議員が御紹介いただいた女性の減少率というところで50.4%ということできりぎり50%、その人口戦略会議が設定した基準の50%をぎりぎり下回ることができずに分類されたというふうに考えておりますが、改善率に関しては県内でも高いほうだというふうに認識をしております。

2点目の隣の自治体で東京の出版社が毎年発表している住みたい田舎ランキング1位に選ばれたというお尋ねがありましたが、御質問いただきましたランキングについては、住宅支援、子育て支援、福祉・教育施策、町全般の総合的な施策というのが評価対象となっております。また、日常生活、交通、医療、娯楽などの施設が備わっているということも指標となっております。大山町としましても、日頃から他の市町村の情報は得ておまして、子育て支援を中心に施策を講じているところでございます。今後も引き続き参考となる施策については、費用対効果を含めて検討してまいりたいと思います。

3点目の自治体消滅の判断基準についてのお尋ね、また過去10年間の数値のお尋ねですが、国立社会保障・人口問題研究所が国勢調査の結果に基づいて公表します日本の地域別将来推計人口の数値を使用されておりますが、これによりますと2010年が63.3%、2015年が53.6%、そして2020年が50.4%というような推移となっております。大山町の将来人口推計、詳しいものはホームページに掲載をしております。

4点目の若い女性の転出についてのお尋ねですけれども、世界経済フォーラムがジェンダーギャップ指数を公表しておりますけれども、日本全体が教育や健康分野でトップクラスですが、経済や政治に関しては下位を争うというような状況でございます。議会など、全ての意思決定に女性参画を推進していくということが日本全体では必要な状況なのではないかというふうに考えているところです。

そしてジェンダーギャップのお話がありました。これは女性にとって魅力的な職場というのは誰にとっても働きやすい職場でありまして、行政としても率先してそのような職場づくりを進めているところでございます。

5点目の小さい頃からの教育が大切だというお尋ねですが、これは御指摘のとおり小さいときからの教育というのは大切だというふうに思っております。これらを改善していくためにも、大山町としましては英語教育や国際交流といった機会の拡充などによりまして視野が広く多様性を受け入れられる人材育成が必要だということで取組を進めております。

6点目のジェンダーギャップ解消についてのお尋ねですけれども、現在、次期の総合計画の策定に向かっているところですので、再構築や再検討が必要なことに関しては織り込んでいきたいというふうに考えております。教育長の答弁も同様でございます。

以上で答弁といたします。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 大山町の数値はぎりぎり50%付近ということで改善率は大山町のほうがいいという、これを聞いて少し安心いたしました。とはいっても、世間全般に消滅可能性自治体というレッテルが貼られてしまいますと非常に聞こえも悪いですし、例えば大山町に移住しようと考えてる人にとっては大山町よりも存続可能な自治体のほうがいいのかなと、そういう選択肢も生まれてくるのではないのでしょうか。

今回、消滅可能性自治体から脱却した島根県12自治体では総じて出生率が高いようですが、島根県知事は引き続き出生率の向上に努めていくということを言っています。現在大山町の出生率は幾らぐらいでしょうか。これをアップするためもっと抜本的な施策が必要だろーと思っておりますが、そういうことを実施する考えはないのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

合計特殊出生率に関しては、最新のものが出たらまた御案内をしたいと思っておりますけれども、改善を図るために様々人口減少対策あるいは子育て支援策等を行ってきたところでありまして。特にこの消滅可能性自治体という発表、全国の特に町村であったりとか小規模な自治体というのは、ある意味迷惑してるというような自治体多いと思っております。全

国の町村会からもそういう意見が公式に出ていますし、やっぱり不安をあおるという  
ようなマイナス面があると思いますし、さらにはこの人口減少の問題が自治体の責任み  
たいなところになっているのが非常に問題だと思っています。自治体で努力はしますが、  
これはある意味、国全体の構造の問題であって、これは自治体の責任みたいなふうに取り  
られるというのが一番大変なことであって、またその自治体間の過度な競争が生まれる  
とかいうのも問題だというふうに思っております。と言いながらも、やっぱり大山町と  
してできる努力はしていくというようところが基本的な考え方かなというふうに思っ  
ております。

特にその減少率が50%を超えているところが消滅可能性自治体というふうになっ  
てますが、やはり見るべきはどれぐらい改善しているか、全体の比較というよりはどれぐ  
らい前回からその自治体で改善がなされているかというところが見るべきポイントかな  
というふうに思っていて、この調査でも若年女性人口減少率の増減ということで前回調  
査からどれぐらい改善したのか、あるいは悪化したのかというところで4段階でこれも  
区分けがされています。大山町の場合は、その中でも若年女性人口減少率が10ポイン  
ト以上改善しているという一番いいランクに入っていて、鳥取県内19市町村のうちこ  
こに該当しているのは7つの自治体しかありませんので、改善率の中では県内でも高い  
ほうだというふうに認識をしております。

ほかのまちと比べて競争しても仕方ありませんので、昔の自分の町と比べてどうか  
というところをしっかりとこれからも意識をしながら取組を進めていきたいと思いま  
す。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 確かに人口減少は国の責任も非常に重大だと思ってお  
ります。それにしても大山町に住んでる町民、少しでも幸せな生活ができるように、住み  
やすい町を目指してほしいと思います。

隣町のことをうらやましがってもあまりいけないんですけども、高い評価を、全国1  
位に選ばれた高く評価された一つが、民間ボランティア団体が移住者が持つ不安など気  
軽に相談できる団体として活動してるというふうなこと。それから、移住者への住宅補  
助が最大200万円と非常に高い。それから空き家情報の発信、空き家対策で空き家物  
件を充実させて、それから実際に見に来なくても360度カメラでどこからでも空き家  
状況を遠くからでもここへ来なくても見れるというような情報提供をやってるよう  
ですが、その点についてはどうお考えでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

様々な自治体で様々な取組がされているというふうに承知をしております。率直にほ  
かのまちの取組ですばらしいなと思ったものはなるべく取り入れるようにしてござ  
います。

し、大山町でもほかのまちのことをまねするだけではなくて、しっかり課題と向き合っ  
て課題の解決につながるような取組を今後もしていきたいというふうに考えております。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 人口減少対策の方向性として、端的に言えば若い女性の  
転出超過を解消し、そして婚姻件数が増加することが重要なことだと思います。質の高  
い雇用の創出、男女の格差の解消、これらを解消していけばもっともっと若い女性が住  
みやすくなる町になると思いますけども、ただ行政として雇用の創出、安定した雇用、  
男女間の格差の少ない雇用の創出、これが理想ですけども、なかなか行政としては難し  
いところだろうと思います。

例えば、県内企業に就職し大山町に住んでもらえば、安心して子育てを行え、仕事と  
家庭の両立ができる。こういう根本的な施策が必要だろうと思いますけども、現状男性  
優位の社会で家庭、子育てなんかはほとんど女性の負担というような形ですが、これら  
をもっともっと改善していかなければジェンダーギャップも解消されないと思っていま  
すが、例えば高校、大学在学時から町出身者へ働きかけて地元就職への手厚い助成制度  
創設、特に女性への働きかけをすべきと考えますがどうでしょうか。

それから、町内企業には仕事と育児の両立が可能な女性活躍の環境づくり、企業の問題  
ですから非常にここら辺は難しいと思いますが、そういう働きかけとか自治体として、  
行政としてやれることはないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

岡田議員言われるとおり女性が働きやすいとか、あとは女性がやりたい仕事、また仕  
事の職場環境だったり、様々女性の視点でまだまだ改善すべきところというのはあると  
思います。民間の事業者の取組という面もあるかもしれませんが、行政としても引き続  
きできることはないかしっかり検討していきたいと思います。

○議員（14番 岡田 聡君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 岡田議員。

○議員（14番 岡田 聡君） 消滅可能性自治体というレッテル、もう少しの努力で大  
山町もこのレッテルが外れるような状況ですので、もっともっとこれ以上に人口減少対  
策力を入れていただいて、そしてジェンダーギャップの解消、これも非常に大切なこと  
だと思いますんで、なかなか難しいことですけども世間の風習を変えていくということ、  
少しずつでもそこら辺りに努力していただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 引き続き努力をしてまいりたいと思います。

○議員（14番 岡田 聰君） 終わります。

○議長（米本 隆記君） これで岡田聰議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩とします。再開は1時55分とします。

午後1時44分休憩

午後1時55分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

引き続き一般質問を行います。

次、15番、野口俊明議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 野口でございます。今日は1問だけ質問させていただきます。

私がこの質問をするに至った動機は、今まで、町長も御存じのように、皆さんも、大分前までは広報について、大変このホームページについて、皆さんの議員さんがしてきました。私はもう今の町長になられて、すごく英語べらべら、それからパソコンやインターネットもプロ並み、だからもう町の紙媒体の広報は私は本当に自慢できる広報だと思っているんですよ。そのぐらいだから、こっちはまんだもっともっと自慢できる広報だと思っていたんですよ、実際言って。

ところが、私にこの前、何か見えにくいと。見えにくいって、探しにくいという住民の皆さんから話があって、それでちょっと聞いてみてもらったら、みんなちゃんと載せてますよっていう回答があって、ありゃりゃりゃと思って、この間のこの議会一般質問の最終日の日に全協が終わって帰ってそれからできる人にちょっとやってもらったら、1時間たったってようそこを出さんだ。パソコンができる人でも。ああそりゃ、こりゃいけんなと思って、それから急遽この町の広報はどう考えると。ホームページは、私は本当に広報の紙の媒体は、もう議会だよりもあれですけど、全国で成績取ってますけど、これも私はもう本当に不満がないと住民も思ってると思ってました。だからもうこっちのほうなんか、それよりか先に町は取り組んできちんとしておられると思っとったら、そういうパソコンができる人でもあれと。急遽私もこの質問書を書いてぱっと持ってきて、その後……。それは後からにするか。そういうことからこの質問させていただくことになりました。

町長として本当にペーパーレスでやってこられて、だから本当に紙面の広報のようにもっともっと力が入るとっておったんですよ、私は。だから不思議でかなわんような気もしてました。

私なんかは、議会の皆さんも知ってるとおり、町長は英語べらべら、私は英語音痴、それからコンピューター、パソコンは町長はプロ並み、私はもう音痴、これも。そういう状態の私がこの質問するんですから、おかしく思わないで聞いて質問に答えてほしい

と思います。この前段はどうとしても、町の広報はどう考えるということでホームページは自慢できるのかということで町長の答弁を聞いてから質問しようと思ってますし、私、教育長のほうも質問しますので、ひとつゆっくりと聞いてってください。お願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 野口議員の一般質問にお答えをいたします。

ホームページは自慢できるのかということでお尋ねをいただいておりますが、まず野口議員御指摘のとおり情報が探しにくいというところはよく声としてもいただきますし、私自身そう感じてます。過去にちょっとリニューアルをしたんですが、あまり、多少は改善はできてますし、例えば今でいうスマホ対応でスマホで見れるようにはなったりとか、アクセシビリティの関係でどのような方でも見ていただけるような形にできてきてますが、情報の探しにくさの部分があまり改善してないということで、今、改善に向けてまた取組を進めていこうというふうにしているところです。

特に大幅なところはまた今後していきたいと思いますが、現状でもやっぱり見にくい原因として、もう古くて使われてないような情報だとかそういうものがいつまでも残っていて、例えば検索してもそういうものが先に出てきてしまって、必要なかったりだとかというものが出てきてしまうというようなことがありますので、そういうもう必要がないもの、古い情報、使われてないものなどを消したり、また記事の内容がより正確になるように改善などしているところでございます。

質問の趣旨を踏まえまして、今後も改善に努めていきたいと思っておりますし、言われるみたいに、私自身もまだ十分な大山町のホームページになっていないというふうに認識はしておりますので、さらに力を入れて改善をしていきたいというふうに思っております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 答弁書にないプラスアルファの言葉もいただいたわけですが、町長もそういうふうな認識も持っておられるということであるわけですが、基本的にこの件についてどういう改善策を今、町長、現在考えておられるのか。取りあえずちょっと最初にさわりとしてお聞きしたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

先ほどの答弁と重なるところはありますが、必要な情報はしっかり分かりやすく作り込んでいながら、不要な情報はなるべく減らしていくということを積み重ねていき

いというふうに思っております。

あともう一つ、情報が探しにくい原因としましては、ちょっと分かりにくいかもしれませんが階層が深過ぎるという問題があります。大体どんな情報も2回か3回ぐらいボタンをばちばちとやったら見れるようにするというのが見やすいホームページなどというふうにも言われますが、何か10回ぐらいどんどんどん入っていてもなかなかたどり着けないというような深い階層の作りになっているというのが大山町のホームページのあまりよくないところでしたので、そういうところの改善もしっかりやっていきたいというふうに思っております。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 分かりました。

それから、今の先ほど最初の答弁でもありましたように、いわゆるいろんな議案の更新状況、何か音痴の私が昨日ちょっと見せてもらったら、もう古いものから新しいものまでばらばらに入ってるところもあるわけですね。そこら辺の町としての、例えば年に何回とか月に1回とか、いわゆる会議の後とかいろんな事案があった後に、例えば何日以内にするとかって、そういうような取組なんかはしておられるわけではないですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

具体的に、例えば何かの会議があった後の資料がいつまでにというところは、明確に基準を設けておりませんが、それぞれの課の判断においてなるべく早く掲載はするようにしております。

また、一部掲載が漏れているようなことも見聞きしますので、そういうところも対策を立てていきたいと思っています。対策というのは例えばルールづくりであったりとか、基本的にはその更新は一つの課が行うわけではなくて各課が各課のページについて更新等をしていくということになっていきますので、そのやり方等も踏まえて検討していきたいというふうに思います。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） ということは、書く内容については各課が担当して、結局これは今は何課だったかな、一番後ろの総合戦略課長だ、ここに提出するという事案になってるわけですか。そうすると、その総合戦略課としてはそれをどういう処理の方法で載せていくっていう格好になるわけですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

総合戦略課が担当課ですが、総合戦略課が全部の情報を取りまとめて掲載をしているというわけではなくて、直接各課から編集ができるような形を取っております。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） ということは、基本的な記事の内容としては各課が責任持ってやらなければならないということに、もう決まってるということですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

原則としてそういうことになっております。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 分かりました。

基本的なことは大体分かりましたが、今のこの広報について、みんなが一番分りにくいのは、私、教育委員会だと思ってます。今の町の住民は、これが教育委員会が名和の公民館に入ってること分かってる、住民も。なら、ほかの町や県外の方は教育委員会どこにあるのということになっちゃうんでしょう、多分。今の町の組織図、こういうの間これは新聞でなしに広報に出されたあれだと思うんですけど、大山町組織図ですよ。これについて、本庁それから出先があるけど、ちゃんと教育委員会事務局っていうのもあるんですよ。この間、初めにこの質問書を出すときに1時間もかけてよう出せなかった慌ててこれ書いて出して、その後数日後に町長のプロ度よりかもうちょっとプロ度のある人にこの教育委員会関係を調べてもらったです。そうしたその人でもなかなか大変だと。それで今、先ほど町長が言われたように、何ぼもあれせにゃいけんということで、本当にこれじゃ地元の今の少々の人でも、自分みたいな者でも大変だから、本当に普通パソコンが開けるような人ならもっと大変だと思うということなんですよ。まずは最初にこの組織図をこういうこの状態に改められたらどうですか。そう思うんですけど。両方とも。だって最終はこっちが握ってるんだけん。

○議長（米本 隆記君） どちらが先答えられますか。

○議員（15番 野口 俊明君） どっちでも、どっちも聞きたいですね。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

組織図をこれに改めたらっていうのが……。

○議員（15番 野口 俊明君） いや、ちょっと時間止めて。これでしょ。

○町長（竹口 大紀君） はい。

○議員（15番 野口 俊明君） これ探っていくとないだ、教育委員会。名和公民館。ち

よっとなら座っといってください。座っちゃって。

名和公民館。その中に、これまんだ教育委員会って分からだ。名和公民館長の下にいわゆる教育長があるんですよ。名和公民館長の下ですよ、教育長は。これで見ると、町の広報で見ると、教育委員会ありませんから。三役の一人がもう公民館長にならにゃいけんってことですよ。ほんで公民館長の下に教育長があって、教育委員さんがある。我々大山町の中では、議会が、議長からして議会があってもういつもこういう点については、我々はもういろんな話をしながら議長を通じて今のこのホームページでも何でも上げていくんですよ。私、今この状況を見てると、もう教育委員さんも教育委員会もいわゆる記事だけくれと。あとあんた方はもうどげでもええ存在だというやな、本当に失礼な話だけど、こういう感じにしかこのホームページ見りゃ見えんだ。どう思われますか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 御指摘ありがとうございました。

私もホームページは見ておりますけど、そこまではちょっと確認ができておりませんでした。野口議員が今回指摘されたことにつきましては早急に対処したいと思っておりますが、今後も見られた方の感想ですとか町民の皆様の御意見、御感想を基に改善に向けていきたいと思っております。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 町長もどう考えられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） その順番というのは、ホームページの中の表示の順番ということですかね。

○議員（15番 野口 俊明君） ホームページの中に教育委員会というあれがないだんな、基本的には。

○町長（竹口 大紀君） 今、すみません、ようやく理解できました。

○議員（15番 野口 俊明君） 教育委員会というのをパソコンで探せば、このあれが基本的には出てこんだ。あれになって、2種類から出てくるんですよ。

○町長（竹口 大紀君） 立ち話もなんですから、ちょっと答えますので。

おっしゃられるのは、そのホームページのトップに、そういうふうに組織ごとに用事があって探されたい方向けには役場の組織の一覧という形で出てこないの、例えば今のホームページのトップだと、暮らしのしるしとか、その中に教育・文化とかいうところがあって、そこから教育委員会に入っていく。そういう形になってますが、確かにこれだと、各課ごとに用事があって探したい人からすると一手間多いわけです。だから野

口議員言われるみたいに、その探す側のユーザー目線で何を基にして情報を探していきたいか。みんながみんな検索するわけじゃないので、その情報のたどり方のたどれるパターンというか分類をもう少し増やさないといけないというのは、これは御指摘のとおりだと思っています。またそこはそれを踏まえて改善していきたいと思っています。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） ひとつよろしくお願いします。

今の本当に状況なら、この幼児・学校教育課まで出して、そしたら保育関係とか学校関係というのが出てくる。それからもう一つのほうが、その中で今度は学校関係のほうをしたら教育委員会事務局が出てくる。本当に町長が言われるとおり大変な作業です。ぜひ私、教育委員さんなんか私らよかパソコンの達人ばかりだگان、見てると。私はほんに素人ももう置いてけぼりの人間ですよ。だけん自分でようせんだけん人頼んでもやらにゃいけん状態。でもできる人でも初めなかなか探せんと言うんですよ。そこら辺で、記事は各担当が作られるかもしれん。でもその記事はええんだけど、ぼんと見れば教育委員会に管轄はどの課とどの課というのが分からんです。そこら辺の考えも教育委員会としてはどうですか。ちょっと変えてもらいたいと思われませんか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） ぜひ改善に向かっていきたいと思っております。以上です。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） まあ、ということです、町長。ぜひ、私びっくりした。

今回のこのこんなに私の痴呆が入ったような人間が一生懸命人を頼りにやって、こうして見て、各課において、ならその記事が責任持ってどこら辺まで教育委員会も含めてチェックされてますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

私も全ての記事をチェックしておりませんが、定期的に見ながら確認はしておるところです。やっぱりその記事の掲載の責任というのは、各課長ということになろうかと思っています。

ただ、野口議員が指摘されている今の教育委員会の情報が探しにくいというところは、これは教育委員会の責任というよりも、これはホームページを全体の構成を管理している総合戦略課の責任だと思いますので、そこは総合戦略課で改善すべきところだと思います。全体の作りというところを総合戦略課でしっかりもうちょっと作り込んで、見やすくなったところへしっかり情報を上げていくというところは、教育委員会を含め各課

に取り組んでもらうように進めていきたいというふうに思っています。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 教育長さん、今、町長もこう言っておられるから、しっかりとコミュニケーションされていいものを住民にも国民にも与えてください。よろしくをお願いします。

それで、さっきちょっとチェックのことを言いました、各課のあれ。もう一步真剣にチェックしてもらいたいものがあります。今回、私が見つけたんは教育委員会。このほかの課の並んだる順番は古いもんがあったりなんかするわけだけど、もう一度ちょっとそのホームページに掲載されてる内容を、今日今ここでなんて言いませんけど、本当にチェックが行き届いてないなど。確実に住民そこを見たら見てますよ。ぜひ真剣に、教育長さんが最後を確認するせん、そういうことでなしに、課の中で今の不祥事なんかがあったときにいつも町長もあれも言われます。もうちゃんと確認していきますということも言われるけど、これについても確認が私されてないような気がするんですけど、どう考えられますか。これどういう、今後についてももう少し何とか改善点があるかないか、そこら辺をちょっと両方とも聞かせていただきたいと思います。町長にも教育長にも。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まずは御指摘いただいたように、情報の探しやすいトップページの作り方であったりいうところは改善していきたいと思えますし、あとはやっぱり一つの課がまとめて情報を掲載するというのは、相当な数になって各課にまたがる情報というのも多くありますので、一つの課で集約してやるというのは難しいということを考えて、やはりその情報を更新する各課の認識と、あとは総合戦略課あるいは町全体の方針等をうまく合わせていく必要があると思っています。

今後改善をしていく上では、当然、総合戦略課は様々検討しながら改善をしていくわけですけども、各課でホームページの情報更新作業をする担当者ですとか、必要な職員ともう少し協議を重ねながら、またその道の専門家のアドバイスとかも入れながら、より見やすいホームページを作っていくたい。そして、しっかり大山町の情報を発信していきたいというふうに思っております。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

ホームページに掲載する記事の内容についてですが、各課の中で情報を確認した上で最終的に私のほうが確認して教育委員会としての情報ということで出しておりますが、

そのような間違いがあったということを今お聞きしていますので、再度教育委員会全体で見直してみたいと思っております。

今後はやはり必要とされてる情報をすぐに見ていただけるような、必要とされてる住民ですとか、また他町からこちらのほうに移住したいというような方がおられた場合に、大山町の教育がどうなってるんだらうかというようなところで大山町の教育の魅力を発信できるような、大山町の魅力発信の基となるような情報も含めて発信していくように改善していきたいというふうに考えます。以上です。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 今、町長の話も教育長の話も町民や県民、国民に約束されたということですよ。ひとつ忘れとったというやなことがないように、よろしく願いしたいと思います。

ぜひ今そこにスマホ持っておられるなら、スマホの最初のページ出してみられたら。もう本当に恥ずかしい。10年前、2016年の大山町の状況が今日見れるんですよ。やっぱりぱっと開いてそこが出るのに、2016年の情報が最新情報になつとるなんていうのはちょっと恥ずかし過ぎらへんか、町長。本当に。何にとっても最初の顔がもう悪いっちゃうか、印象が悪くなっちゃいますよ。ぜひそこら辺は最初に、ほかのほうは記事は順番に仕方がないだけえいってもいいけど、そこら辺はよくしていただきたいと思うんだけど、これはもう毎日でも気をつけていただきたいと思うんですけど、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

最新情報は常に更新をしております、トップページの最新情報今も見ますが2024年のものが出てくるというところでもありますので、中には古い情報が残っていて、更新日が非常に古い情報というのも出てくることがあります。そういったものは繰り返しの答弁になりますけれども適宜削除等しながら、最新の情報が出てくるような形にしたいというふうに思っています。

○議員（15番 野口 俊明君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 野口議員。

○議員（15番 野口 俊明君） 本当に町の顔、町長が私に答弁書でいただいたこれ簡単なことだけど、この答弁書でなしにあの言葉を住民は今日聞いているわけですから、ぜひ今日副町長や創生監にも何かしゃべる機会があって私よかったなと思っているんですけど、ぜひ陰ながらチェックの体制をお願いしたいと思っております。次長さんもですよ。ぜひしてほしいと思います。

いわゆる基本的にこれ以外の広報やあれもたくさんあるわけですけど、一番町長のこのメインであるペーパーレス、これが一番おろそかになってたという、この機械音痴の

あれの私があれば。私なんか、五十数年前にIBMとNECか、日本では、これのときにあれは何だ、コンピューターというか、半年間、週に1回ずつNECのあれから勉強したことがあるんですよ、パソコン。昔は何々言語、何々言語ということからパンチカードで穴空けたような時代でした。もう今の皆さんがやっておられるこの状況から私なんかはもう全然ついていけませんけど、これで少し私もパソコンを勉強する気になったなと思います。

ひとつ分からんことあったら聞きに行きますので教えていただきたいんですけど、いわゆる町民だけに分かるこの組織なんか、こういう状態を町民だけでなしにやっぱり先ほど私が言ったように、もう県民誰でもが共有できるようなそういうことにぜひ努力して、いつというまでは私言いたくないけど、大至急で今年度内に改正していただきたいと思うんですけど、教育長、町長、お二人どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

常々改善しているものにプラスしてさらなる改善を図っていきたくと思いますし、改善のゴールが完成がいつなのかというずっと改善し続けなければいけないと思っておりますので、今年度中にも今言われたような指摘を踏まえた改善は最低限していきたくというふうに思っております。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えします。

野口議員からは、今回の一般質問ではホームページは自慢できるのかという質問内容をいただいております。野口議員のおっしゃるように、自慢できるホームページになるように努力していきたく思っております。以上です。

○議員（15番 野口 俊明君） 終わります。

○議長（米本 隆記君） これで野口俊明議員の一般質問を終わります。

○議長（米本 隆記君） ここで休憩します。再開は2時40分とします。

午後2時28分休憩

午後2時40分再開

○議長（米本 隆記君） 再開します。

次、12番、近藤大介議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 近藤大介です。57歳、今年の夏には58になります。

58になりますが、まだ小学生の子供もおります。2日間、昨日、今日と一般質問続いておりますけども、今日最後の一般質問をさせていただきます。町長、教育長に我が町

の未来を問うつもりで2問質問を用意させていただいております。よろしくお願ひします。

まず初めに、人手不足、人材不足の対策はということで町長、教育長にそれぞれお尋ねをしたいと思ひます。

全国的に様々な産業で人手不足とか人材不足が言われています。我が町でも様々な事業所、様々な業種で人手不足、人材不足が深刻だという声を聞いております。

そこでお尋ねをいたします。まず、町長に対して人手不足、人材不足の状況の認識、これについて適切な状況把握ができているかということでお尋ねします。

2点目として、人手不足、人材不足に対して大山町行政としてどのような対策を行っているか、また今後どのような対策を行うのか。

3点目、移住定住施策と併せて県外から町内の事業所へ就労支援するような取組はできないでしょうか。

4点目、地域おこし協力隊の制度がありますけれども、これをさらに積極的に活用していく考えはありませんか。

それから、次の点は教育長に御答弁いただけたらと思ひますが、人手不足、人材不足の対策としてリカレント教育、リスキリングについて教育長の考えをお答えいただきたいと思ひます。

また、若者定住につながるふるさと教育について同様に教育長のお考えを聞きたいと思ひます。

以上、御答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の一般質問にお答えをします。

人手不足、人材不足の対策はというお尋ねで、5点質問をいただいております。

まず、1点目の人材不足などの状況把握のお尋ねですけれども、大山町としましては人材不足かどうかの状況把握の指標としまして有効求人倍率を確認をしておりますが、ハローワーク米子管内の今年4月時点での有効求人倍率は1.36倍でありまして、管内全体で慢性的な人手不足が続いている状況であります。

2点目の人手不足等にどのような対策を行っているか、また今後どのような対策を行うかというお尋ねですが、まず昨年度からの取組としましては、商工会と連携しまして商工会が商工会員の中から求人募集を行いたい事業者を募って大山チャンネルに掲載をするという取組をしております、延べ24事業者に利用いただいております。これによりまして求人と求職のマッチングをスムーズにすることによって、人手不足感を少しでも解消できればというふうに考えているところです。

今後につきましては、毎年行っておりますがハローワークと雇用就業支援対策に関する情報交換会を実施しまして、引き続き対策を検討していきたいと思ひます。

続いて、3点目の移住定住と併せて就労支援する取組ができないかというお尋ねですが、現状といたしましては移住相談の際にサテライトセンター等で季節就労、短期就労等を募集している事業者につないでハローワークを紹介している状況でございます。今後、移住定住施策と併せた就労支援等について、ほかの自治体などの効果的な事業実施の情報等を収集していきたいと考えております。

4点目の地域おこし協力隊の関係のお尋ねですが、近隣自治体でも地域おこし協力隊の活用を上手に進めている自治体がありますので、参考にしながら積極的に活用を進めていきたいと思っております。しかしながら、目的としましては、人手不足の解消のための地域おこし協力隊の活用ということではなく地域おこし協力隊は活用していきたいというふうに考えております。

以上で答弁といたします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見寛幸教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） 近藤議員からいただきました一般質問にお答えいたします。

人手不足対策、人材不足対策としてリカレント教育やリスキリングについて教育長の考えは、若者定住につながるふるさと教育について教育長の考えはにお答えいたします。

お答えする前に、この場面を見ておられる町民の皆さんに用語のことをちょっと説明させていただこうと思っております。

新しいいろいろな横文字の片仮名の用語とか出てきまして、こちらで聞かれておりますリカレント教育のリカレントというのは繰り返すとか循環するという意味でして、リカレント教育というのは学校教育から離れた後も必要なタイミングで再び教育を受け就労と教育のサイクルを繰り返すというようなことで、自分の仕事に関する専門的な知識やスキルを学ぶことが目的であります。

そしてリスキリングというのは職業能力の再開発、再教育のことを意味しておりまして、先ほどのリカレント教育に少し似ているようですが、近年ではこのリスキリングというのは企業のデジタルトランスフォーメーション戦略、AIがいろいろ仕事の中に入っていくことで新たに必要となる業務とか職種が出てくるわけですので、それに順応するように従業員がスキルや知識を再習得するという意味で使われることが増えております。そういったことを踏まえて、答弁をさせていただきます。

企業などでは人材不足対策の一つとしてもこのデジタルトランスフォーメーションの推進を行っておりまして、個人で社会の変化に対応するだけではなく企業でもリスキリング研修を行っております。個人でもリカレントのみならずリスキリングの個人対応も必要な時代と捉えております。今の社会の環境変化の中にあって学ぶ必要がある町民の方々の需要に応え支援していくことは大切であり、社会教育に求められていることと考えております。

教育委員会では、昨年度リカレント教育、リスキリングに関連する事業としまして町

民、また町内事業者の方を対象としたデジタルトランスフォーメーション入門講座を実施しました。デジタルトランスフォーメーションを身近に感じ、自社やお勤めの会社に生かせる行動につながることを目的としたものでして、会社員の方、自営業の方、農林業の方、公務員の方など約30名の参加がありまして、基礎からデジタルトランスフォーメーションを学んで身近に感じる事ができたと好評でありました。私もこの講座を受講しましたが、とても分かりやすく本当に初歩的なところから理解が進んだなというふうに考えております。また、分かりやすく相手に伝える資料を短時間で作成するスキルを身につけ、新たな仕事の獲得や自身の仕事に生かすための資料作成講座も行いました。

今後も住民や町内事業者の要望を聞きながら、リカレント教育、リスキリングの学習機会の提供を行っていきたいと考えております。

次に、ふるさと教育は地域資源でありますひと・もの・ことを活用して学校、地域、家庭が一体となってふるさとに愛着、そして誇りを持ち、地域を担う次世代を育成する教育であります。地域の方々や子供たちの関わり、つながりが最も重要であると考えております。これからの地域を担う子供たちを育てる上で、とても大切な教育であると考えております。

現在、大山町でも各小・中学校でコミュニティ・スクールを通じて地域と子供たちをつなぐ取組が進みつつあります。例えば、令和5年度には名和中学校のコミュニティ・スクールを中心としました推し活だいせんクラブ（名和公民館まつり）ですとか、それから先輩に学ぶ取組、キャリア教育として高校生の話聞く会の実施など、生き生きと活動する地域の方々や多くの関わりを持ちながら育つことで大山町に愛着を持ち、大山町のために活躍したいと考える子供たちが育っていくものと考えております。

地域の方との関わりを通して、人とのつながりだけではなく産業や伝統、自然などの資源に触れ大山町をよく知り、自分たちが育った町を守り発展させていくという気持ちの醸成にもつなげ、地域に愛着と誇りを持つ子供たちを育ててまいりたいと考えております。

以上で答弁とさせていただきます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 先に教育長に対しての再質問をさせていただきたいと思っております。

人材不足、人手不足に対して教育委員会としてできることはないのかというところで、昨年度実施されたDX入門講座とか資料作成講座などの取組、とてもいい取組だったのではないかと思います。

今年度も同様の取組はありますか、今年度の取組の状況について教えてください。

○教育長（鷲見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

昨年度行った講座では先ほども申しましたが30人の方々の参加があり、感想を見ますと本当にためになった、よかったという高評価をいただいております。今年度も引き続きこの講座は進めていきたいと考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） ありがとうございます。

やはり継続して取り組んでいくことが必要だと思いますし、またこの紹介のあった2本の事業に限らず、今、大山町の企業、産業でこういったノウハウだったり知識が必要とされているのか。機会を捉えてしっかり事業者の方々と話し合うことを通じて、タイムリーな講座などを企画し運営してくださるよう継続して取組をお願いしたいと思えます。

それから、子供たちに対してと申しますかふるさと教育についてなんですけども、幼児・学校教育課でも主要施策としてふるさと教育上げられております。大事なことだとは思いますが、私としてはふるさと教育って学校教育でも取り組むんでしょけども、むしろ大事なものは社会教育の面からのふるさと教育ではないかと思っています。よくふるさとを愛する心を育てると言いますが、やはり子供たちにとって身近な大人がふるさとを愛する姿勢をしっかりと見せていなければ、子供たちにそれは伝わらないと思います。やはり若い人が町から流出してなかなか帰ってこないということには、帰ってこない何かのやはり要因がある。その課題に対して、やはり大人がしっかりと課題解決に向けた取組をしていく、大人たちがふるさとを愛する姿をしっかりと子供たちに見せるということが最も大事なのではないかと思っています。そういう意味では、そういった社会教育からのアプローチがやはり十分ではないのではないかとこのように思っていますが、教育長の所見をお願いいたします。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

近藤議員のおっしゃるとおり、大人が自分たちの姿を子供、次世代の子供たちに見せる。大人の背中を見て子供たちは育つという言葉がありますが、やはり大人の生きざまと生き方から学ぶことは子供たちにとっては重要なことだと思っております。そういう面では学校教育の中でもそういう場面はありますが、やはり社会教育、またまちづくりの自主組織ですとか公民館の事業ですとか、そういった部分で学校教育と社会教育、そしてまちづくりが一緒になって課をつながり合いながら進めていくことが大切だと思います。

具体的に、この社会教育の中で今後どのような方策を考えているのかというのは課長

のほうの説明いたします。

○社会教育課長（西尾 秀道君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 西尾社会教育課長。

○社会教育課長（西尾 秀道君） お答えします。

4月から公民館がまちづくり課に行ったということもございますが、社会教育としてどういったふるさと教育ということを展開していくのかというのは委員会でもお話しさせていただきましたけれども、公民館の皆さんともじっくりと話し合いをしながら全体で展開していくというようなことを考えていきたいというふうに考えております。具体的なところというのは、まだこれから検討していくところです。以上です。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） やはり社会的な課題、我が町にとってのそういった課題に対して住民が解決していくための助けになるのが社会教育ではないかと思えます。

今回、機構改革によりまして公民館の業務が教育委員会部局から町長部局に移ったということに関してはプラスの面とマイナスの面とあるかと思いますが、ぜひそのプラスの面を生かしていくためにも大山町の様々な課題について社会教育の視点からしっかりと課題を捉えていただき、公民館が町長部局になってもやはり社会教育の拠点として公民館との連携を積極的に図り、まちづくりの推進と併せて我々大人が学ぶ機会、我々大人に様々な気づきを与えてくれるような社会教育をしっかりと進めていただきたいと思いますがいかがでしょうか。

○教育長（鷺見 寛幸君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 鷺見教育長。

○教育長（鷺見 寛幸君） お答えいたします。

先ほど西尾課長も申し上げましたが、今後についてはまちづくり課とも協働しながら行っていきたいと思います、やはり議員のおっしゃったような町民の皆さんのニーズ、また大人、これから学んでいきたいというような、何を学びたいのかというようなニーズも探りながら、それを取り入れながら進めていきたいというふうに考えております。以上です。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 大山町の様々な事業所、業種で人手不足、人材不足は本当に深刻になってきていると思えます。

そこで、町長に順次お尋ねしていきたいと思うんですけれども、人手不足が続いている状況は認識しているとしながら、これに対しての有効な効果的な施策がやはり十分に打っていないのではないかと考えています。一例としましては、大山町も直接関わるスキー場のことでお尋ねしたいと思えます。昨シーズンは雪不足もあって大変でしたが、

雪不足も深刻でしたがそれ以上に人手不足によってリフトが十分に稼働させることができなかつたと。雪があっても稼働しないリフトがあった。これも深刻な人手不足の一つの姿ですけれども、これについて今シーズンその改善策など人手不足解消についての取組について少し説明をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

昨シーズンのスキー場の営業に関して、特に大山町が持っている中の原のスキー場、それを指定管理している会社の状況を御説明しますと先ほど近藤議員が言われたとおりで、シーズンの初め、雪がなくて稼働ができなかつた。シーズンの途中、雪があつたけど稼働はできなかつたというところで、シーズン当初のリフトの稼働はできなかつたのは、これは雪不足でありますし、シーズン中に雪があるにもかかわらずリフトが動いてないということがありましたが、これは人手不足の面もあると思いますが、やっぱりシーズン通して雪がない。シーズンスタートに雪がないと仕事がないというような状況になりますと、そこから季節、その期間だけ働いておられる方というのはほかの仕事を探されるパターンもあるでしょうし、それによって人が集まらなかつたというところもあると思っています。

全体の人手不足の解消については、これは指定管理の事業者の努力にもよりますけれども、例えば以前、リフト乗り場のリフト券の確認等を人の目、手で行っていたところを自動化をしてみたり、それによってリフト1台当たりの稼働するために必要な人員を少なくとも稼働できるようにしたりというようなことは、指定管理者の努力でされてきたというところがございます。

今後につきましては、また雪の状況にもよりますけれども、ひとまずはシーズン通して雪が降って、それによって必要なリフトが動かせるような人員体制はどういうふうにしたらできるのか、引き続き指定管理の会社等とも意見交換をしながら進めていければというふうに思っています。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 説明を今いただきましたけども、結局、具体的な解決策が用意できてるのかどうなのかちょっとよく分からなかつたわけですがけれども、今シーズンもこういったようなことは十分起こり得るわけですし、昨シーズンの状況で大山のスキー場は随分スキー客の方から評判を落としたということだと思います。大山のスキー場は駄目だということが定着すれば、当然冬の観光で生計を立てておられる様々な事業者にも波及をいたします。地域の産業を守るためにはやはりシーズンの最初で雪が降ったから降らなかつたからではなくて、やはり安定してリフトを稼働させるのにはどうしたらいいのかということをしつかりと考え、事業者が考えるのはもちろんですけども、

しっかりとそれを行政としてサポートしていく、共に取り組んでいくことが必要だと思います。もう少し具体的な施策が考えられないのでしょうか。ちょっとスピードが遅いように思うんですけど、どうでしょう。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

具体的には、事業者がどういう手を打ちたいかというところを協力していく。指定管理でやっていますので、町としてこういうふうにしていくというようなところではありませんので、事業者としてどういうふうにしていくのか、今様々対策を練っておられるというふうにもお聞きしておりますので、その状況を確認しながら町としても引き続き協力をしていきたいというふうに思っています。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 一旦観光の部分は置きまして、観光に限らず例えば建設業、土木業、これも町にとっては大事な産業です。だんだん公共工事は減ってきているのでなおのこと、いざ万が一災害があったときに、大雪が降ったときに、あるいは大雨で土砂災害などが起こったときに速やかに稼働できる、そういった土木作業、建設業の人的な資源、設備の資源がどのぐらいあるのか。これが痩せ細っていたのでは、万が一住民の安全が守り切れないということにもつながるのかと思います。安定的に建設業、土木業の人材確保というのはやはり町の安心安全のためにも業者と連携しながら人材確保が必要ではないかと思えますけれども、その辺りの認識と今後の対応策について何かありましたら御説明をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

公共事業を担う土木建設関係の会社の人材不足というところですが、今、近藤議員はその事業の発注量が減っていったらという話がありましたが、町としては減らしているという認識ではなくて、毎年安定的に多く出す年、少なく出す年がばらつきがないように事業の発注量を平準化しながら発注をして、その仕事を受ける土木建設関係の事業者が年によって人が多く要る要らなくなるというようなことがないように、事業等を発注する際に気をつけているというところでございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） いや、聞いているのは、人材不足について、人手不足についてどういうふうに認識をしているかということと、その対応策が検討されるかというところを聞いています。できるだけ簡単に説明をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

まず、土木建築建設関係の人材不足というところですが、これは明らかに大山町でも不足していますし全国的にも不足しているという認識であります。特に大山町においても職員として土木技士、建築技士、技士の採用を毎年行っておりますが、まず応募がないというのが近年の状況であります。応募数がもう著しく少ないというのが公務員であってもそういう状況でありますし、民間で言えば特に今の数年前のオリンピック需要、そして来年の万博需要、そういうところで都市部にある意味人材が集まってしまっている。そこにお金が出て人が流れていっている。それによって特に地方における土木建築建設の業界の人材不足、人手不足というのは進んでいっているものというふうに認識をしております。

対策としましては、なかなか一つの町ですということは難しいと思っておりますが、今、物価高に合わせる形で最低賃金をはじめ処遇の見直し、賃金改善等をされていっているところであります。それによって今まで仕事をしていなかった人たちが仕事をしてもらいかなと思えるようなレベルに早く最低賃金等が上がっていくと人手不足の解消の一つの手だてになり得るというふうに思っておりますが、なかなか単町で取り組む施策としては難しいのかなというふうに思っております。引き続き建設業協議会等とも意見交換をしながら、必要な対策等は練っていききたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 近頃、他の市町村では地域おこし協力隊の受皿としてそういう人手不足、人材不足を抱えている民間企業を受皿として地域おこし協力隊を募集している例が増えてきているようです。大山町でもそういったことを積極的に検討すべきではないでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） またそういう事例を参考にしながら考えてみたいと思います。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 私も以前から地域おこし協力隊もっと積極的に活用したらという質問を何回かしてますし、ほかの議員も同種の質問をしたりしています。にもかかわらず大山町はあまり地域おこし協力隊積極的に受け入れているとは言えない状況だと思うんですけども、積極的に制度を活用できない理由はこういったことが上げられるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

地域おこし協力隊の活用を積極的に取り組んでいこうというふうに大山町としては考えておりますが、例えば過去募集した地域おこし協力隊にしてもなかなか応募がないとか、あとは応募があっても採用試験に合格しないというようなところがあって、地域おこし協力隊に応募される人材の不足感も感じているところであります。引き続きうまく取組をしている自治体がありますので、その例を参考にしながら地域おこし協力隊は積極的に活用していきたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） ぜひ積極的に取り組んでいただきたいと思います。

参考までに、島根県の隠岐の島、海士町では令和5年度の隊員数が69人、岡山県の西粟倉村は56人、島根県の邑南町が25人ということで、大山町は令和5年度の時点で5人なんですよね。積極的に取り組んでいる自治体と比べると、大きな差があります。先ほどは建設業や観光関係を例にしましたけれども、介護や福祉の現場でも人手不足は本当に深刻になってきています。鳥取県としても、今、介護の関係で外国人材の活用を支援するとかロボットを活用する支援だとか、本当に人手不足、人材不足に対しての支援どんどん積極的にやりかけていますので、大山町としても地域の産業を守るためにもぜひできることはどんどんやっていっていただきたいし、地域おこし協力隊積極的に活用することが移住促進、定住促進にもまたこれつながっていくと思います。

委員会の審査などでそういった福祉分野での地域おこし協力隊の活用できないだろうとか、あるいは社会教育、スポーツ振興の場面で活用できないかというような提案もしていますけれども、そういう方法があるんですかみたいな感じであまり職員さんに関心がないような気がしています。やっぱり地場産業の人手不足感をしっかりと町のほうで把握していただいて、業界の方の深刻な状況を声を聞いていただいてできる手は打っていただきたいし、地域おこし協力隊の制度、所管課を含め関係各課活用できる方法幾らでもあると思いますので、積極的に周知して積極的に取り組んでいただきたいと思えます。答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

繰り返しになりますけれども、地域おこし協力隊は積極的に活用していきたいですし、その手法も模索していきたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 次の質問に行かせていただきます。2問目、第3次総合

計画の策定についてということで、大山町も合併して20年になろうとしています。合併した当初の大山の恵みを生かしたまちづくりから第2次総合計画の楽しさ自給率の高いまちの10年計画が終わりを迎えつつある中、第3次総合計画の策定の作業が始まっていますが、素案作成や計画策定について町民の参画をどう図っていくかということで町長の答弁をお願いいたします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口大紀町長。

○町長（竹口 大紀君） 近藤議員の2問目の質問にお答えをいたします。

第3次総合計画の策定についてということで、その中で町民参画をどのように図っていくかというお尋ねですけれども、町民参画に関しましては審議会のメンバーを公募しまして、またアンケート調査、今町民の7分の1に相当する人が対象ということになっておりますが、を実施するなど多様な意見が反映されるように進めているところであります。

今後につきましても、一部の町民だけが参画する町民参画ではなくて、一人でも多くの町民が参画できるように計画策定をしていきたいと考えております。

以上で答弁いたします。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 一人でも多くの町民が参画できることが大事だと。まさにそのとおりだと思います。具体的にはどのような形でそれを実現する予定か、具体的などころを説明をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今、次期総合計画の策定に向けて作業を進めているところであります。特にアンケート調査の結果、集計して分析して、今後どのような作業を進めていくのか、どういう形でどういう手法でやっていくのかというところは、そのアンケート結果等を基にして検討されていくものというふうに認識をしております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 委員会などで説明されている資料によりますと、来年7月の審議会に計画案を示す予定なんですかね。そこまで1年間しかないんですけども、1年間の中でどれだけ多くの町民参画ができるのか。ワークショップなどの計画はあるんでしょうか、その辺りの説明をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 詳細は担当からお答えをさせていただきます。

○総合戦略課長（山崎 栄一君） 議長、総合戦略課長。

○議長（米本 隆記君） 山崎総合戦略課長。

○総合戦略課長（山崎 栄一君） それではお答えします。

現在、第3次総合計画の審議を行っていただきます審議会の委員さんを決めている段階でございます。こちらについては、公募委員として3名の町民の方にも参加していただこうということで公募のほうも現在行っているということです。

実際、具体的にどういった方法でやっていくということについてはこの審議会の中で決めていただくこととなりますが、こちらのほうに提案する内容として事務局側で考えておりますやり方として、第2次総合計画のようなワークショップはやらない方向で提案をしようと思っております。以上です。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） いや、今の説明だと公募の委員が3人ということで町民の参画はほとんどできてないと思うんですけども、その第2次るとき、このときは若い人を中心に70人ぐらいの素案策定委員会、未来会議と呼ばれる素案作成会議がつけられて、結構長時間にわたって議論されたという背景があります。なぜ今回はそのようなワークショップしないんですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

今現段階では審議会のメンバーを決めていくという段階で、具体的な進め方に関しては審議会の決定によるところだという認識です。

ワークショップを全くしないということではなくて、前回のような形ではなく何らか違う形で町民参画を図っていく。なるべく一人でも多くの町民参画を図っていくという考えの下に進めていきたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 今の現行の第2次総合計画、大山町未来づくり10年プラン、これ非常によくできた計画だなと私は思っています。さすがに70人にも及ぶ方が聞くところによりますと足かけ3年、延べ300時間の議論をしながら総合計画のたたき台をつかった。今から取り組んではとても300時間も議論の時間確保はできないとは思いますが、やはり住民の方がしっかり議論していく場を町として設定することが必要なのではないのでしょうか。この総合計画の中では、総合計画の位置づけとして、総合計画とは大山町行政が何を目指しどう進んでいくのか町民みんなが共有し、みんなで行っていただくための道しるべがこの総合計画なんだというふうに前書きでうた

ってあります。その道しるべだとするこの理念を、楽しさ自給率の高いまちを目指そうという理念が今現在町民と共有するといった取組ができているでしょうか、町長の認識をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

総合計画にのっとって各種事業を行っておりますので、その各種事業の中で感じ取っていただけるのではないかとこのように考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 総合計画の中にいろんな事業がのっている。それに基づいて事業を進められている。確かにそうなのでしょう。でも大事なのは、やはりその理念を町民がみんなでも共有できているかどうかというのが大事だと思うんですよ。町長のその認識、みんなにこの理念が共有されている、あるいは役場職員は共有されるようこういう取組をしているんだということを御説明いただきたいと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

具体的にというところではなく、各種事業の中で総合計画の理念に基づいて取組を進めているところでありますし、総合計画の理念を全住民に共有するというのは非常に難しいことだと思っています。そういうことができる自治体があれば、ぜひそういう自治体の例も参考にしながら今後取組を進めていきたいというふうに思います。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 私ね、町長御自身がこの総合計画ちゃんと読んでいたかちょっと心配になるんです。総合計画の中では、参加なくして未来なしって書いてあります。参加なくして未来なし。これについて、町長どう解釈しておられますか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

総合計画に関しては当然何度も全て読んでおりますし、常に手に取れるところに置いて業務には当たっているというところでもあります。

参加なくして未来なしというのは、当然住民参画が大事だし何か町で行われるものは人がやるんじゃなくて自分がやるんだ、そういうような考えの下で各種事業が行われていくことが町の未来として望ましいものだというふうに認識しております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 町長はよく御承知だと思いますけれども、日本全体が少子化で高齢化社会がまだまだ進むような状況の中で、社会保障に係る費用はまだまだ増える。住民、国民の負担もやはり増やさざるを得ない、もしくは国民負担を抑えようとするならば住民サービスを減らさざるを得ない。もうどっちにしてもこの先現役世代にとってはしんどい状況、特に田舎ではしんどい状況になる。過疎化も進む。地域どうするんだと本当に深刻な課題です。やはりそれをどうするのかというのは、もうやはり役場だけでは解決できない。住民と力を合わせながら、NPOみたいな第三者的な組織も育成しながらみんな課題解決に取り組んでいく必要があるという前提の中で、住民参画は必要だと。みんなが取り組まなければこの地域に未来がないんだと。そのためにはやっぱり地域の課題、みんながやっぱり共通認識として持つ必要があるんじゃないですか。第3次総合計画、第2次総合計画を基本的に引き継ぐのでそんなに住民の意見は聞かなくてもいいみたいな説明もありましたけれども、そうじゃなくって関わるのがまず大事なんだと。ぜひこれから素案、原案作成していく過程の中で、まだ1年間あると思います。一人でも多くの町民を交えたワークショップなどが必要でしょうし、前回この第2次総合計画の作成に関わってくださった当時の未来会議の人にも積極的に声をかけて、もう一回この総合計画どおりにうちのまちづくりができていのか点検しながらどうリニューアルしたらいいのか。特に今の30代、40代の人の声を聞きながら作成すべきじゃないですか。町長の答弁をお願いします。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

第1次、第2次の計画があるから第3次の計画をつくる時に住民の意見を聞かなくてもいいじゃないか。そんな説明は全くしたことがありませんので、どういうふうにしてそういう認識になっているのかは承知をしておりますけれども、引き続き先ほど来答弁をしておりますとおり一人でも多くの町民に参画してもらえらる形で第3次の総合計画は策定してまいりたいというふうに考えております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 一人でも多くのってというのが、3人公募のつもりだったけど4人にしましたとかそんな話じゃ意味ないですよ、町長。もうちょっと具体的に、先ほど来ワークショップみたいなことにも触れてますけれども、所管の委員会での説明ではワーキンググループ会議みたいなのをやっていくと、1年間かけてね。6回ぐらい検討会開きますよということで、そこに参加するのは役場職員が15名ぐらいと民間から15名ぐらいだということで、民間15名っていうのも多分充て職みみたいな人が多い

んだらうから、10年前のような若い世代が自発的に参加するような格好には今のところ考えられてないような気がします。やはりそこはいま一度住民参画というのを正面から捉え直して、前回と同じとは言いませんけども同じような手法をしっかりと取っていただきたいなと思いますし、それからこの総合計画の策定については先ほどのほかの議員の一般質問では地方創生監も所管として関わられるというふうに聞いております。そういった取組について、ワークショップを取り入れた計画策定の手法などについて地方創生監の認識と方針のようなことも少し説明いただけたらと思います。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

地方創生監の方針というものはありませんので町の方針をお答えさせていただきますけれども、先ほど委員会の中での説明の話がありました。ただ、これは何も決まっていないところであって、今後それらを基にして審議会で今後のやり方等は決定をされていくというところでございます。

案として出している中でもそのワーキンググループのような形でやっていくということですが、さらにそれをどこまで細かくやっていくのか。その細かく細分化してやっていく中でどれぐらい住民参画が得られるのか、可能にできるのかということはまだ未知数だというふうに思いますので、引き続き第3次の総合計画の策定を進めながら住民参画が得られるような計画の策定に向かっていきたいというふうに思っております。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 総合計画の原案が出来上がるのは、時期的にはいつ頃になるのでしょうか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） 担当からお答えいたします。

○総合戦略課長（山崎 栄一君） 議長、総合戦略課長。

○議長（米本 隆記君） 山崎総合戦略課長。

○総合戦略課長（山崎 栄一君） お答えします。

今の想定でいきますと基本構想のレベルですけども、そちらを今年度中に仕上げたいと思っております。以上です。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） 基本構想を今年度中にやるということはもう9か月ぐらいいかないというようなことで、あんまり日にちがそんなに余裕持ってあるわけでもないのに、そういったどういう手法で住民参画やっていくのかまだきちんとは決まってい

いんだってというのは、はっきり言ってちょっと取組が遅過ぎるのではないのでしょうか。  
その辺り、反省すべき点が多いと思いますけど、どうですか。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

この第3次の総合計画策定に向けてこういうスケジュールで動いていきますよという  
ような全体感は以前にも説明をさせていただいておりますが、大体そのスケジュールに  
沿って今進捗を図っているというところでございます。

○議員（12番 近藤 大介君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 近藤議員。

○議員（12番 近藤 大介君） これ以上話ししてもあんまり有意義な議論にはならない  
ような気がしてきましたけど、やっぱり言葉の上では町長、住民参画が必要だとか一人  
でも多くの町民に参画してもらってという言葉だけは美しいんですけども、ここ数年と  
いいますか、ここ数年の大山町政を見ていて住民参画が積極的に取り組まれていると議  
会のほとんどのメンバーは思っていないんですよ。やっぱりそこは真摯に受け止めていた  
だいて、今の大山町の住民参画は決して十分ではないということを前提に今年度末まで  
の基本構想策定に決して時間的な余裕は十分にはありませんけれども、やはりワークシ  
ョップなどの手法を使いながら本当に地域のこれからを担っていく30代とか40代の  
若い人の声をしっかりと受け止め、反映させられるような総合計画の策定を目指してい  
ただきたいと思います。改めて、そういったことについての町長の見解を伺って終わりま  
す。

○町長（竹口 大紀君） 議長。

○議長（米本 隆記君） 竹口町長。

○町長（竹口 大紀君） お答えします。

近藤議員からいただきました素晴らしいお言葉を基に、今後も策定に向けてしっかり  
議論していきたいというふうに思います。また御意見をいただければと思います。

○議員（12番 近藤 大介君） 終わります。

○議長（米本 隆記君） これで近藤大介議員の一般質問を終わります。

---

○議長（米本 隆記君） 以上で本日の日程は終了しました。

次回は6月20日木曜日に本会議を再開します。定刻午前10時までに本議場に集合  
してください。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後3時38分散会

---